



KUREHA



IPA(インプロピルアルコール)などの有害物質を含む「浸し水」を使わない水なし印刷を採用し、VOCの発生を大幅に削減しています。



植物油溶剤のインキを使用しています。



適切に管理された森林で生産された木材を原料に含む「FSC™認証紙」を使用しています。



読みやすい、モリサウUD(ユニバーサルデザイン)フォントを本文に使用しています。

お問い合わせ先 **株式会社クレハ** CSRレポート編集連絡会(RC部)

〒103-8552 東京都中央区日本橋浜町3-3-2

TEL:03-3249-4686 FAX:03-3249-4709

<http://www.kureha.co.jp/>

株式会社クレハ

「クレハCSRレポート2013」をお読みいただく皆様へ

このレポートは、2012年度のクレハグループのCSR活動内容を、すべてのステークホルダーの皆様にご報告するために作成されたものです。

CSR活動を推進するための組織体制、社会との共生、環境・安全に関する取り組み、グループ会社の活動について、さまざまな事例やデータをご紹介します。また、当社は化学物質を扱う企業であるため、レスポンシブル・ケア活動報告に関する情報開示にも重点を置いています。

従来のCSRレポートは、社会や環境への取り組みなどの非財務情報を中心とした内容でしたが、2013年度版では、新たに売上高や営業利益などの財務情報に加え、CSRレポートとしての充実を図りました。

【CSRとは】

CSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)とは、企業が社会や環境と共存し、持続可能な成長を図るため、その活動の影響について責任をとる企業の自主的な行動です。社会の一員としての企業が永続的に活動するためには、利益の追求のみではなく、適切な企業統治や法令遵守への取り組みによって社会との信頼関係を築くことや、環境保全や保安防災活動を通じた環境との調和を図ることが必要です。また、これらの活動内容をステークホルダーの皆さんに公開することが企業と社会とのコミュニケーションをとるために大切な活動の一つになっています。

【レスポンシブル・ケアとは】

化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う活動を「レスポンシブル・ケア(Responsible Care)」と呼んでいます。1985年にカナダで誕生した活動で、1995年に、社団法人日本化学工業協会の中に日本レスポンシブル・ケア協議会が設置され、国内での活動が始まりました。

対象範囲

■CSR活動

(株)クレハおよび連結グループ会社
連結対象会社数39社(連結子会社37社、持分法適用会社2社)

■レスポンシブル・ケア活動

- (株)クレハおよびグループ会社12社
- (株)クレハ
 - クレハ合繊(株)
 - クレハ建設(株)
 - (株)クレハ環境
 - レジナス化成(株)
 - Krehalon Industrie B.V.
 - Kureha Advanced Materials LLC
 - クレハエクステック(株)
 - クレハ運輸(株)
 - (株)クレハエンジニアリング
 - (株)クレハ分析センター
 - 日本エクストロン(株)
 - 上海呉羽化学有限公司

対象期間

2012年4月1日～2013年3月31日
(一部、2012年1月1日以降の取組みも含まれます。)

参考にしたガイドライン

- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- 環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」
- ISO26000(社会的責任に関する手引き)

ウェブサイトのご案内

CSRレポート2013は、当社ホームページから、PDFでダウンロードしていただくこともできます。

HOME ⇒ CSR活動 ⇒ CSRレポート2013

<http://www.kureha.co.jp/guidance/policies/responsible/csr2013.pdf>

また、当社ウェブサイトのCSR活動のコーナーでは、これまで発行した報告書をご覧いただけます。

発行

2013年9月(次回は2014年9月発行予定)



本レポートは日本化学工業協会レスポンシブル・ケア委員会のレスポンシブル・ケア・コードに準拠しています。

クレハCSRレポートに関するお問い合わせ先

株式会社クレハ RC部 CSRレポート編集連絡会
〒103-8552 東京都中央区日本橋浜町3-3-2
TEL:03-3249-4686 FAX:03-3249-4709

レスポンシブル・ケア実施宣言

当社および当社グループ各社は、地球環境の保全、人の安全と健康の確保は企業活動の根幹と考え、企業の社会的責任であるとの認識の下に、レスポンシブル・ケアの実施を宣言します。当社および当社のグループ各社は、次の「レスポンシブル・ケア方針」の下に、実施計画を策定し実行していきます。

この方針は、当社および当社のグループ各社の全てに共通に適用されるものです。

1995年4月20日
2002年7月1日……一部改訂
2005年10月1日……一部改訂

株式会社クレハ

レスポンシブル・ケア方針

●国際規則や法令を守ります

私達は、保安防災、労働安全衛生、製品安全および地域生活環境を含む全地球的な環境の保全について、国際規則や国内の法令を守るとともに、日本化学工業協会が推進するレスポンシブル・ケア活動に積極的に参画します。

●地球環境に配慮し、安全な操業をします

私達は、事業活動において地球環境の保全に配慮し、操業においては従業員や市民の安全と健康を守り、事故、災害、公害を起こさないよう努力します。

●安全な製品を社会に提供します

私達は、社会の要求を素早く的確に把握し、製品作りに生かし、お客様が安心して使用でき、信頼していただける製品とサービスを提供していきます。

また、私達は、製品の研究・開発から生産・販売を経て廃棄に至るまでの全ライフサイクルにわたり、安全性、信頼性、環境への影響について配慮した製品とサービスを社会に提供します。

●環境・安全の情報を管理し、役立てます

私達は、製品の正しい取り扱いや処理方法、環境、保安、防災に関する適切な情報を集中管理し、消費者、ユーザーおよび製品納入に関連する企業等に提供します。

●社会とのより良い関係を築きます

私達は、行政当局や市民の関心に留意し、環境・安全情報を提供して社会に対して正確な広報活動を行い、また、市民社会の活動へも市民として積極的に参加し、社会とのより良い関係の維持と構築に努めます。

■ トップ・メッセージ	3
■ 企業理念体系	4
■ 暮らしとクレハ ～事業と環境配慮製品～	5
■ クレハグループの製品紹介	6
■ コーポレート・ガバナンス	7
ガバナンス体制/内部統制システム	
■ コンプライアンス	8
コンプライアンスの実践	
■ 情報管理/リスク管理	9
サイバー攻撃対策/海外ERPシステムの展開/最新ITの活用/ リスク・マネジメント/本社防災パンフレット	
■ 株主・投資家に対する取り組み	10
情報開示の考え方/株主とのコミュニケーション/ 投資家・アナリストとのコミュニケーション	
■ お客様に対する取り組み	11
商品改良に対する社外の評価/商品を通じたお客様への社会貢献	
■ 取引先に対する取り組み	12
購買基本方針	
■ 従業員に対する取り組み	13
社員へのコミットメント/人事制度/教育制度/働きやすい環境づくり	
■ 地域社会とのコミュニケーションに対する取り組み	14
リスクコミュニケーション/地域との共生	
■ 社会貢献に対する取り組み	17
社会貢献	
■ レスポンシブル・ケア(RC)活動の概要	18
RC実施宣言/RC取り組み体制/RCマネジメントシステム/RC活動の総括表	
■ 環境会計	20
■ 環境負荷の低減に対する取り組み	21
環境負荷の全体像/地球温暖化防止/大気汚染防止/化学物質排出 把握管理促進法(PRTR法)/水質汚濁防止/容器包装リサイクル法/ 産業廃棄物の排出量削減とリサイクル/環境保全対策投資	
■ 保安防災に対する取り組み	27
保安防災	
■ 事業所紹介	28
樹脂加工事業所	
■ 労働安全衛生に対する取り組み	29
労働安全衛生/技能研修センター/保安防災・労働安全衛生対策投資	
■ 製品安全・品質保証に対する取り組み	31
品質方針/製品安全・品質保証/安全性研究・評価センター	
■ 物流の環境負荷低減および物流安全に対する取り組み	32
物流段階での環境負荷低減/物流事故対策	
■ グループ会社での取り組み	33
グループ会社12社(国内9社、海外3社)	
■ グループ会社のパフォーマンスデータ	39
グループ会社12社(国内9社、海外3社)	



情熱とスピードで、
これからもみなさまに信頼される
“エクセレント・カンパニー”を
目指してまいります。

当社を取り巻く環境

2012年度のわが国経済は、欧州景気の停滞や新興国景気の回復鈍化等の影響から輸出が減少し、円高是正など一部に改善要因が見られるものの、厳しい状況が続きました。

当社グループも太陽光発電市場の供給過剰状態による調整の長期化、大型リチウムイオン二次電池市場の立ち上がりの遅れ、業務用食品包装事業の中国コンパウンド市況の悪化等、事業環境が従来に見通しに比べ、大幅に悪化しておりますが、需要減に見合った最適生産や経費削減に取り組み、影響を最小化したことにより、営業利益は前期比微減になりました。

今後、世界経済は緩やかな回復が期待されますが、依然として不確実性が高く、また、わが国経済についても、政府経済対策による効果や外需の緩やかな持ち直しが期待されるものの、回復のペースは緩慢なものにとどまることが予想されます。

新中期経営計画Grow Globally-II

当社は、1944年の創業以来、当社の株主、顧客、取引先、従業員、地域社会、その他のステークホルダーのみなさまとの信頼関係を基盤とし、機能製品事業、化学製品事業、樹脂製品事業、建設関連事業、その他の関連事業をグループ会社と共に展開しています。当社では、「私たちは、人と自然を大切にします。常に革新を行い成長し続けます。価値ある商品を創出して、社会の発展に貢献します。」という企業理念のもとに、「中期経営計画Grow Globally-II」（2012年度～2015年度）を策定し、これに定められた事業戦略を機動的に実行し、「競争優位にある既存事業の強みをさらに伸ばしながら、新規事業を育成・拡大すること」、「増産および新規投資によるグローバルな成長と投資回収を図ること」に注力し、企業価値向上を図ってまいります。

CSR(企業の社会的責任)

「中期経営計画Grow Globally-II」においては、CSR(企業の社会的責任)の考え方に基づいた事業運営を行っています。CSRの考え方を「地球環境や人々の暮らしに有益なソリューションの提供」、「持続的成長をもたらす改革と事業拡大による経済的価値の向上」および「成長の原動力となる人財の育成・確保およびコンプライアンスと安全を重視した企業体質の確立」とし、これらの向上を通してその価値の総和である企業価値・ステークホルダー共同の利益を向上させ、“エクセレント・カンパニー”を目指して運営してまいります。

また、地域社会を中心とした外部とのコミュニケーション活動を含め、クレハグループでのレスポンス・ケア活動の強化を図ります。特に、環境に徹底して配慮した事業運営を軸とし、環境配慮型商品の増加、環境技術の向上、省エネ投資を進めてまいります。

情熱とスピード

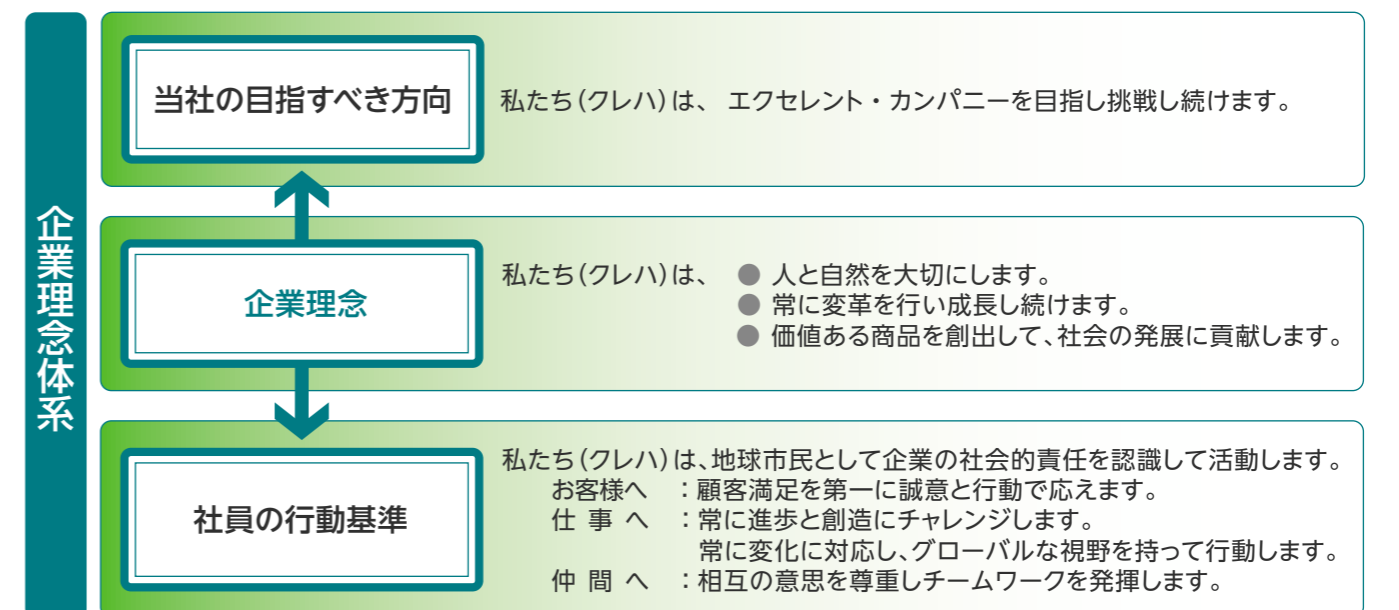
私たちは、「お客様に一番に相談される企業」になりたいと思っています。そのためには、技術的にもサービスのにもトップランクにいないとなりません。常に独自技術でユニークなものを生み出すだけでなく、お客様に満足いただけるコスト、サービスの提供を実現できなければそのような企業にはなり得ないと思っています。すべての課題に対して情熱とスピードをもって、挑戦、実行していく所存です。

今後とも、みなさまのご理解、ご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

2013年9月

代表取締役社長

小林 豊



クレハグループは、機能製品、化学製品、樹脂製品の製造・販売を主な事業内容とし、さらに各事業に関連する設備の建設・補修、物流、環境対策およびその他のサービス等の事業活動を行っています。当社の製品は、電気・電子分野、自動車の素材等として使用される機能樹脂から、家庭で使用される家庭用ラップ、また抗悪性腫瘍剤、慢性腎不全用剤といった医薬品まで、幅広く人々の生活に関わっています。

●会社概要(2013年3月31日現在)

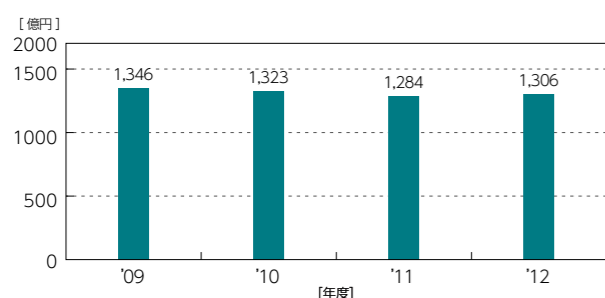
会社名	株式会社クレハ
創立	1944年(昭和19年)6月
本社所在地	東京都中央区日本橋浜町3-3-2
代表取締役社長	小林 豊
資本金	124億6千万円
売上高	1,306億円(連結) 738億円(単独) (2012年度)
主要事業	機能樹脂/炭素製品/電池材料/工業薬品/医薬品/農業/食品包装材/家庭用品/建設/環境/物流
従業員	4,046名(グループ) 1,687名(単独)
ホームページ	http://www.kureha.co.jp/

●営業所 / 事業所 / 研究所

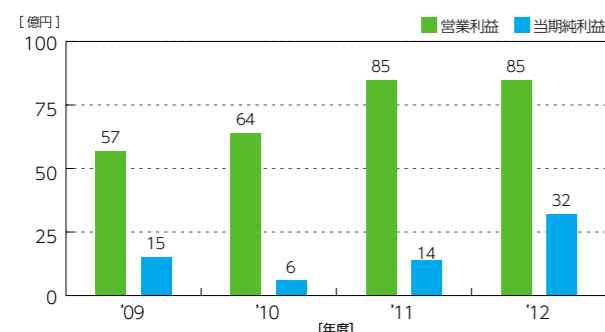
営業所	本社別館(東京都新宿区)/大阪営業所/仙台営業所/名古屋営業所/福岡営業所
事業所	いわき事業所(福島県いわき市) 樹脂加工事業所(茨城県小美玉市および兵庫県丹波市)
研究所	総合研究所/農業研究所/新材料研究所/PGA研究所(福島県いわき市)/加工技術センター(茨城県小美玉市)

●財務情報(連結)

■売上高



■営業利益 / 当期純利益



●事業概要

●高機能材事業

パソコンや携帯電話、自動車の部品に使われる高機能樹脂、高温熱処理炉用の炭素繊維製断熱材や、浄水施設などで使用される球状活性炭などの炭素製品、リチウムイオン二次電池の構成材料である負極材とバインダーを取り扱っています。

●クレハロン事業

ケチャップやマヨネーズなどのソフトボトル、ハムやソーセージのパッケージなど、食品の多様な包装技術に取り組んでいます。

●家庭用品事業

家庭用ラップフィルム<NEWクレラップ>やキッチンまわりを楽しく便利にする<キチントさん>シリーズなど、日常の暮らしをサポートする製品の開発に取り組んでいます。

●化学品事業

環境を守りながら農業生産を高める農業の研究開発や、素材産業の源でありクレハ全体の基盤となる工業薬品を取り扱っています。

●医薬品事業

副作用の少ない薬剤の開発など、人々の健やかな生活を力強くバックアップする新時代の医薬品を創り出しています。

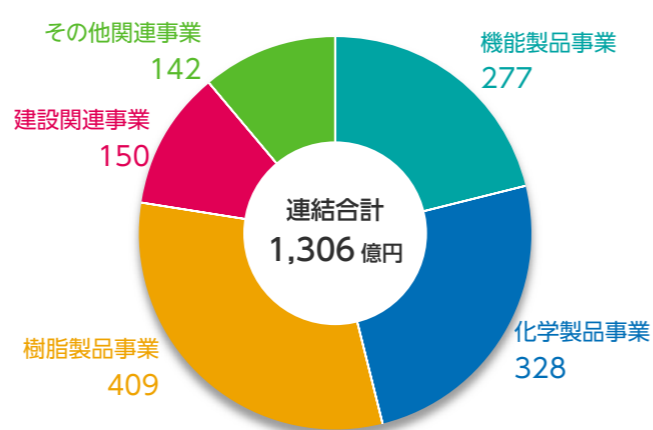
●PGA 事業

世界で初めてPGA(ポリグリコール酸樹脂)の工業化に成功。その生分解性、高強度、優れたガスバリア性を生かした用途開発が世界中で進んでいます。

●グループ会社(2013年3月31日現在)

連結子会社37社(国内24社、海外13社)

■セグメント別売上高(2012年度)



(単位：億円)

クレハグループの製品紹介

わたしたちは、これからも環境に配慮した製品を皆さまにお届けしてまいります。



<NEWクレラップ>

使い心地と品質の良さにこだわり続ける家庭用ラップ



クリップレス包装システム

酸素を通しにくく食品を美味しく保つ<クレハロン>を使用して、金属を使用せずに食品を安全かつ効率的に包装する自動充填結さつ機<KAP>



<キチントさん>シリーズ

食品調理・保存容器、冷凍・冷蔵保存用ジッパーバッグ、クッキングペーパーなどハウスワークを効率よくサポートする家庭用品



炭素繊維<クレカ>

太陽電池を製造する高温熱処理炉などの断熱材に使用されるピッチ系炭素繊維



保護フィルム<KTFフィルム>

フッ化ビニリデン樹脂を使用した太陽電池向け保護フィルム



PPS樹脂<フォートロンKPS>

耐熱性や高強度を生かし、自動車やOA機器の部品に使用される素材



負極材<カーボトロンP>

ハイブリッド車、電気自動車や携帯電話などのリチウムイオン電池の負極材料



PGA樹脂<クレダックス>

高強度、高いガスバリア性を有する生分解性の樹脂。ガス・石油の掘削用途、医療材料等に应用可能



バインダー用フッ化ビニリデン樹脂

リチウムイオン電池電極用バインダーに使用されるフッ化ビニリデン樹脂



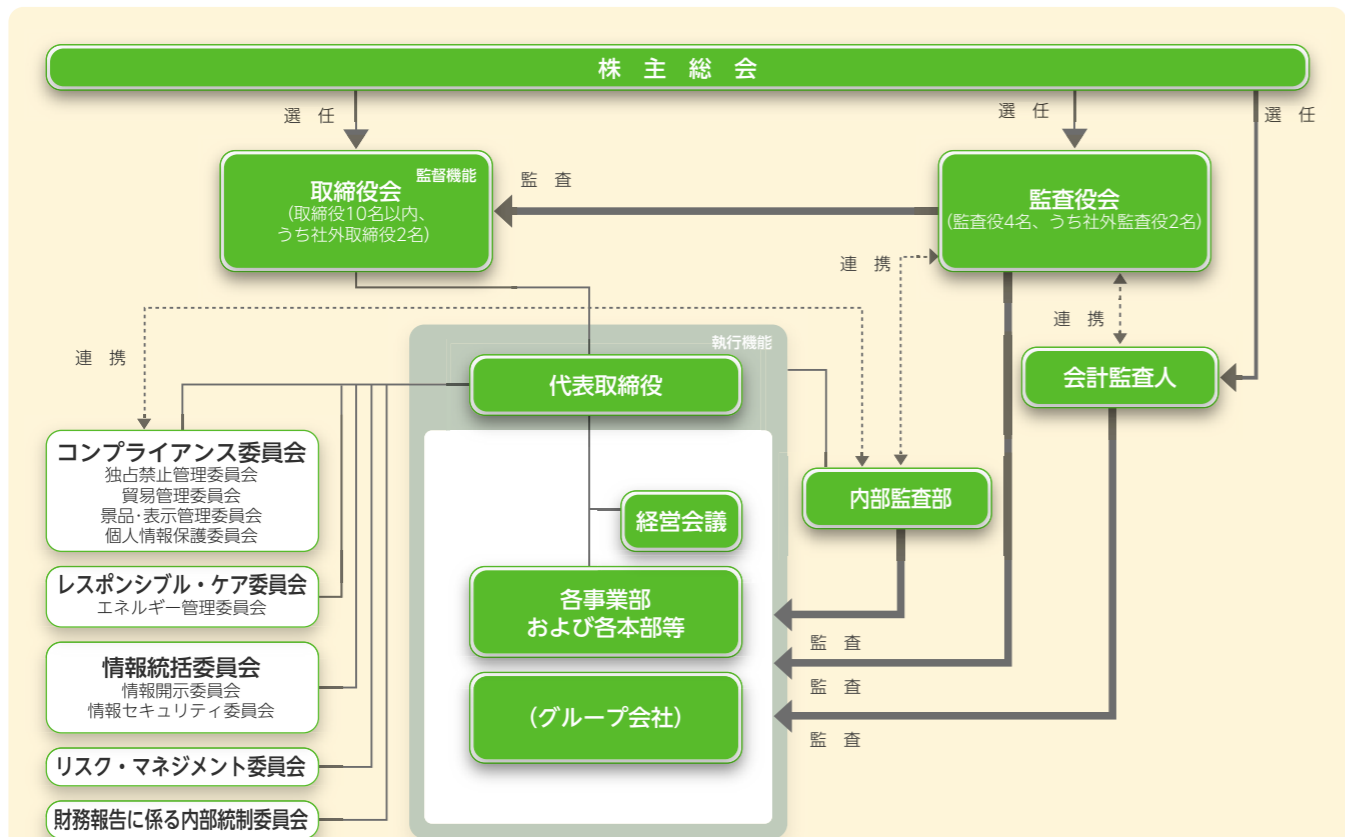
球状活性炭<BAC>

ガス吸着や水質浄化分野などで使用される吸着剤

当社は、経営の透明性を高めステークホルダーとの信頼関係を確保するとともに、企業としての持続的な成長を図るため、コーポレート・ガバナンスの充実に努めています。

ガバナンス体制

当社は、コーポレート・ガバナンスの強化および当社グループの経営における意思決定や業務執行の迅速化を図るため、経営の監督責任と執行責任を明確に分離しています。



【各組織の役割の説明】

・取締役会は、経営陣から独立している社外取締役2名を含む10名以内の取締役で構成しています。取締役会では重要な経営事項の決定と業務執行の監督を行っています。
 ・経営会議は、代表取締役社長および代表取締役社長が指名する執行役員で構成しています。経営会議では中長期経営戦略および基本方針等について審議しています。また、連結経営会議では、当社グループの基本的な運営方針等の意見交換を行い、連結経営の強化を図っています。

・監査役会は、社外監査役2名を含む4名の監査役で構成しています。監査役は、取締役会およびその他の重要な会議に出席し決議事項や報告事項の審議過程を把握できる体制をとるとともに、業務執行に対する監査を行っています。また、監査役は、会計監査人および内部監査部との間で監査計画や監査状況について意見交換を行うなど、相互に連携を図っています。

・代表取締役社長直轄の内部監査部は、会社の内部管理体制等の適切性や有効性を評価検証し、改善の指摘等を行うことにより、経営効率および社会的信頼度の向上に寄与する体制をとっています。

内部統制システム

内部統制システムの基本方針を制定し、当社グループが業務遂行にあたり、法令を遵守し、業務を適正に遂行する体制を確保するよう、各種委員会の設置や社内規程の整備を進めています。「財務報告に係る内部統制」についても「基本規程」を制定し、

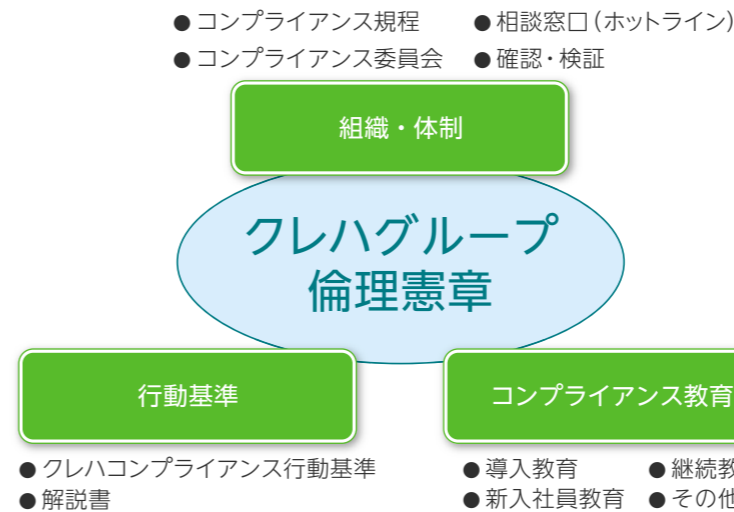
金融商品取引法に定められた「財務報告に係る内部統制の有効性に関する経営者による評価および公認会計士等による監査」を実施し、財務報告の信頼性の確保を図り、経営者(代表取締役)の責任の下、「内部統制報告書」を作成しています。

コンプライアンスの実践

当社は、コンプライアンス体制として「クレハグループ倫理憲章」および「コンプライアンス規程」を定め、コンプライアンス重視の企業風土を徹底すべく体制のより一層の強化を図っています。

また、法令等に反する行為を早期に発見するために、社内および社外(弁護士)にホットライン(コンプライアンス相談・通報窓口)を設置し、法令および社会的規範の遵守に努めています。

さらに、当社は他部門から独立した社長直轄の内部監査部を設置し、コンプライアンスやリスク管理体制を含む社内での内部管理態勢等の適切性や有効性を評価検証し、これに基づき改善に関する指摘・提言を行うことにより社会的信頼度の向上に寄与する体制をとっています。



2012年度
コンプライアンス教育・啓蒙のための取り組み

- 新規採用従業員・幹部社員昇進者を対象とする当社の取り組みに関する講習・説明
- 新規採用従業員・幹部社員昇進者等を対象とするインターネットを利用したeラーニング
- コンプライアンス従業員意識調査の結果に基づく対応
- 中堅管理職層(課長、グループリーダー等)を対象とする教育コースの一部実施
- コンプライアンス行動基準解説書の改訂



クレハグループ倫理憲章

私達は、次の8原則に基づき、国内外の法律、社会的規範およびその精神を遵守するとともに社会的良識をもって行動します。

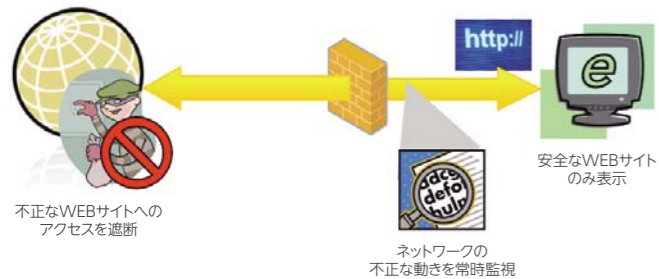
経営トップは、この「倫理憲章」の精神の実現が自らの役割であると認識し、その周知徹底を行うとともに、これに反する事態が発生したときは、自ら問題解決、原因究明、再発防止に努め、社会への適時、適切な情報公開を行い、自らも含めて厳正な処置を行います。また、従業員一人一人は日常の生活において自主的、積極的にこれらの精神を実現します。

1. 私達は、社会のニーズに応える社会的に有用で安全な製品、サービスを開発・提供します。
2. 私達は、地球環境の保護、人の安全と健康の確保に自主的かつ積極的に取り組みます。
3. 私達は、広く社会との対話を大切にし、正確で有用な企業情報を適時、適切に提供します。
4. 私達は、地域社会を尊重し、その発展に積極的に貢献します。
5. 私達は、競争法規を遵守し、公正で自由な競争を行います。
6. 私達は、政治、行政と透明で健全な関係を保ちます。
7. 私達は、社会的良識を備えた善良な企業市民(コーポレート・シチズン)として行動します。
8. 私達は、一人一人が互いの人格、個性を尊重し、ゆとりと豊かさを実現できる企業をつくります。

サイバー攻撃対策

サイバー攻撃に対する対策として、インターネット上の「不正サイトへのアクセス」や「ウイルス感染」を防ぐために、WEBセキュリティの仕組みを強化しました。

また、社内システムから外部ネットワークへの出口に、ネットワーク上の不正な動きを監視する機器を設置し常時監視することで、情報漏洩などの早期発見の対策を講じました。



海外ERPシステムの展開

①事業・拠点立上げの対応力向上、②クレハ本社、統括会社へ報告する情報の明確化、③業務オペレーションの統一を推進するために、グローバル展開を支える海外ERPシステムの基盤(グローバルテンプレート)を2012年10月に構築し、順次海外拠点に展開しています。



最新ITの活用

業務のスピード化と情報共有を推進するために、社内の情報共有サイト(クレハグループポータル)を2013年3月に構築しました。また導入を開始したスマートデバイス(スマートフォン、タブレット端末)の一層の活用に向けたIT環境の構築を進めています。

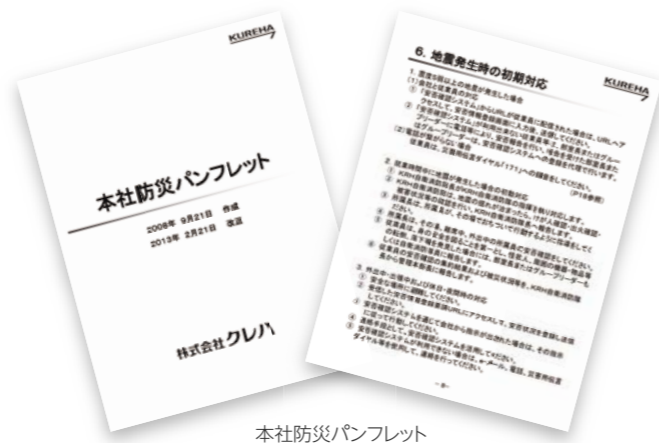
リスク・マネジメント

クレハは、「内部統制システムの基本方針」に基づき、事業活動に伴い発生するリスクを分類し、リスク・マネジメント委員会、レスポンシブル・ケア委員会、情報統括委員会の各委員会がリスク管理を行う体制をとっています。各委員会は当該リスクを認識し、回避、軽減を図るための具体的な対策について社長に提言し、職制を通じて実行しています。

また、東日本大震災発生後に顕在化したリスク課題を洗い出し、従業員の安全・保安の確保、製造設備・品質・ロジスティクスにわたる大規模災害に備えた対策を整備・強化し、事業継続計画(BCP)の策定を進めています。

本社防災パンフレット

クレハ本社では、東海地震や首都圏直下型地震の発生を想定して、2008年9月に防災パンフレットを作成し、2013年2月に東日本大震災発生を踏まえて改訂しました。このパンフレットは地震に対する事前準備およびオフィス内や外出中に地震が発生した時に取るべき行動をまとめたもので、安否確認や緊急連絡方法のほか、地下鉄に乗車している時や車の運転中など「こんな場所で地震が起きたら?」といったさまざまなシチュエーションにあわせた初動対応を掲載し、防災に関する啓蒙を行っています。



本社防災パンフレット

情報開示の考え方

当社は、「情報開示基本方針」に基づき、社会から信頼され支持される企業を目指し情報開示を行うことを基本におき、関係法令や証券取引所の定める「適時開示規則」等に則って、適時・適切に情報開示を行います。また、法令・規則等によらずステークホルダーに有用な情報と判断した場合においても、適時・適切に情報開示を行います。

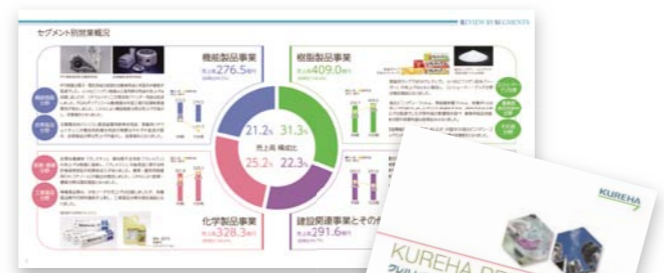
公平かつ継続的に情報を開示していくことが、経営の透明性とステークホルダーからの信頼を高めることにつながるものと考えています。

株主とのコミュニケーション

当社は、定時株主総会を毎年6月下旬に開催しています。招集通知の発送を6月初旬に行い、株主の皆様の議案の検討に必要な時間を確保しています。議決権行使にあたっては、インターネットによる行使の選択も可能としています。

株主総会では、映像の活用といった工夫をするとともに、ご質問に対しては率直かつ丁寧な説明に努めています。株主総会終了後、株主の皆様とのコミュニケーションが図れる懇談の場を設けています。

また、半期に一度、当社の決算概要やトピックスなどをまとめた「クレハ レポート」を株主の皆様にお届けし、当社現況への理解促進を図っています。



クレハレポート

投資家・アナリストとのコミュニケーション

機関投資家や証券アナリストを対象として、中期的な経営戦略や決算に関する説明会を定期的に開催しています。中期経営計画に基づく成長シナリオ、決算や将来の見通しなどについて説明するとともに、投資家からの質問に答えています。

さらに理解を深めていただくために、国内外の投資家との個別取材に対応するなど、積極的な対話に取り組んでいます。

また、株主や投資家の皆様の情報入手と理解をサポートできるように、当社ウェブサイトのコンテンツの充実を図るとともに、サイト内にメールによる「IRお問い合わせ」窓口も設置しています。



決算説明会の様子



当社 ホームページ IRサイト

担当者の声

広報・IR部 長峰 千加子



「クレハのアイデンティティーを伝えていきます。」

「価値ある商品を生み出し、社会の発展に貢献します。」これは当社の企業理念の1つであり、企業として存在していく上での基盤です。広報・IR部では業績や事業状況などを正確に開示することは勿論のことですが、当社が抱く思いを発信し、あらゆるステークホルダーにクレハのことを理解していただけるような活動を行ってまいります。

お客様相談室では、NEWクレラップやキチントさんに対する、クレーム・お問い合わせ・ご要望に対応しています。中でもクレームについては、品質管理システムを運用する中で、開発部門・製造部門などと協力して原因を究明し、製造要因やパッケージ表記の問題については、是正処置の完了まで確認し、再発防止を図っています。また、電話では説明しにくい、あるいは商品パッケージでは説明し足りない、商品の正しい使い方などについては、パンフレットおよびホームページ上で動画やイラストによる説明をご覧いただけるようにしています。

お客様の生の声や統計情報は企画部門や開発部門と共有し、既存商品の改良や新商品の開発に生かされています。

2012年12月に家庭用品事業部では「組織における苦情対策の指針ISO10002/JIS Q10002」に適合する活動を行う旨

の自己宣言を行いました。今後とも、お客様満足の向上を目指し、お客様対応プロセスの継続的な改善に努めていきます。



商品改良に対する社外の評価

当社の家庭用品の主力製品であるNEWクレラップは、2012年に7年連続、通算8回目のグッドデザイン賞(2004、2006~2012年)を受賞いたしました。

NEWクレラップは、2004年から10年連続でリニューアルを実施しています。

「いちばんうれしいラップになろう。」をキーコンセプトに、今後も商品改良を続けてまいります。



グッドデザイン賞

商品を通じたお客様への社会貢献

■ ピンクリボン活動の支援

永年のお客様のご愛顧に感謝し、クレラップ発売50年目の2009年よりリビング用品の売上の一部を、公益財団法人日本対がん協会「乳がんをなくす ほほえみ基金」に寄付しています。



「乳がんをなくす ほほえみ基金」とは、公益財団法人日本対がん協会が2003年4月に設立した乳がん征圧のための基金で、マンモグラフィ(乳房X線撮影)搭載の乳がん検診車の購入や、乳がんの研究・調査、患者や治療者のサポートなどに使われています。

■ ベルマーク運動への参加

1996年からベルマーク運動を通じて教育機関や福祉団体を支援しています。

ベルマーク運動は、「すべての子どもに等しく、豊かな環境のなかで教育を受けさせたい」という願いのもと1960年に始まりました。PTAなどのボランティアで生み出された資金(ベルマーク預金)で学校の設備



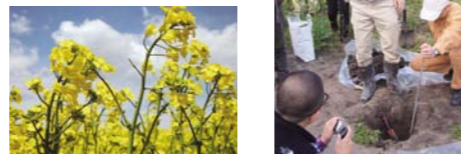
や教材をそろえ、さらに国の内外でハンディを背負いながら学んでいる子どもたちに援助の手を差し伸べています。また2011年からは、東日本大震災で被災した学校や子供たちの支援活動を続けています。

■ 東日本の「食と農の復興支援」

2011年10月よりNEWクレラップの売上の一部を、東日本の「食と農の復興支援」に向けた取り組みに寄付しています。

NEWクレラップ・キチントさんの販売を通じて食の安全・安心に関わっているリビング事業の社会貢献として、被災地域の「食と農の復興支援」を目的とした東北大学・福島大学・岩手県立大学の3プロジェクトに寄付をしています。

3年間で約1億円の寄付を予定しています。



当社は購買基本方針と調達基準に基づいてCSR活動に取り組んでいます。

購買基本方針

当社購買部門はCSRの取り組みの一環として以下のような基本方針に基づいて購買業務を遂行します。

また、当社は調達基準を満たす取引先との連携により、CSR

への取り組みをサプライチェーン全体で推進し、企業価値向上を目指します。

購買基本方針

1. 取引先の選定に際しては、品質、価格、供給安定性、アフターサービス、技術力を総合的に判断し、公正に経済合理性に基づいて行います
2. 取引先の選定にあたり、既存の取引先や過去の実績にとらわれず、広く窓口を開放します
3. 購買取引において、関連する法令を遵守します
4. 取引先と対等で公正な協力関係を築き、相互の理解と信頼関係の向上を目指します
5. 取引先と連携し購買品の品質の維持・向上に努めます
6. 環境保護に配慮した購買活動を行います

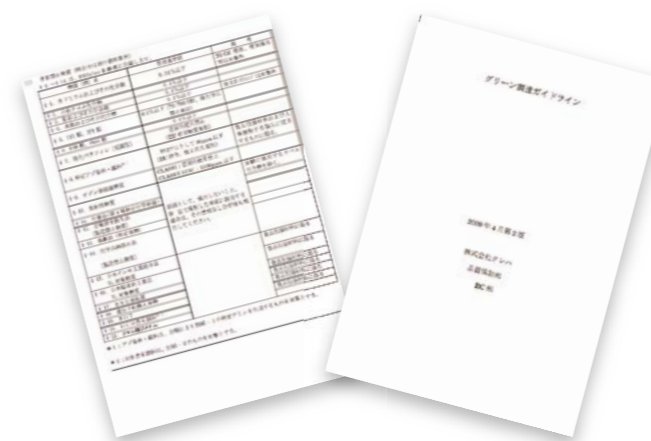
調達基準

- 1 人権・労働
 - 基本的人権を尊重する
 - 従業員の処遇・雇用等で、不当な差別を行わない
- 2 安全衛生
 - 危険・有害要因を特定し、適切な対策を取る
 - 緊急時の対応策を策定し、周知徹底を図る
- 3 環境
 - 環境負荷の少ない原材料・部品の使用に努める
 - 指定された化学物質の適切な管理を行う
 - 産業廃棄物の処理を適切に行う
- 4 公正取引
 - 不適切な利益の供与や受領を行わない
 - 優位的地位を濫用し、不利益を与える行為をしない
 - 製品・サービス・取引方法に関する正確な情報を提供する
 - 事業活動に適用される法令・社会規範・社内規程を遵守する
- 5 品質・安全性
 - 品質マネジメントシステムを構築し、運用する
- 6 情報セキュリティ
 - 機密情報や個人情報を適切に管理する
- 7 社会貢献
 - 国際社会・地域社会の発展に貢献できる活動を行う

2012年度 主な取り組み

当社は、環境保全活動を重要な課題の一つとして位置付け、レスポンシブル・ケア活動に取り組んでいます。グリーン調達という観点にたち、より安全で環境負荷の低い製品・原材料の使用を進めるため、当社の定める「グリーン調達ガイドライン」に基づき、原材料の調達を行っています。

また、国内外取引先を訪問監査してCSR活動状況を確認し、より一層の推進を図りました。



グリーン調達ガイドライン

社員へのコミットメント

「企業理念」の実現のために、「社員の行動基準」に基づいて、会社から社員に対する約束を「社員へのコミットメント」として成文化しています。

右記は、会社から社員への「コミットメント」であると同時に、自分自身が会社の一翼を担うという自覚の下に責任ある行動をとる、という社員一人ひとりが自分自身に対して行う「コミットメント」でもあります。

社員へのコミットメント

1. 社員の先頭に立って行動します。
2. 変革を恐れず新しい可能性に取り組みます。
3. 社員一人一人を尊重します。
そのためには：
 - ・情報の共有化を図り、経営方針を明確に打ち出します。
 - ・公正で透明性のある評価を実施します。
 - ・個人の能力を最大限に発揮する機会を提供します。

人事制度

「経営目標の早期達成のための人材開発と企業風土の革新」の基本目標の下に、役割と責任を明確にした人事制度を導入しています。

この制度に基づき、上司との面談を通じて、従業員各人の役割・目標、および、能力開発ポイントを明示することで、人材開発・人材活用を効果的に行っています。

教育制度

新入社員研修をはじめ、役割・職務別の研修、語学研修、海外留学制度、各種講習会への派遣等を通じ、人材の育成に努めています。今後はグローバル人材育成のための教育プログラムを拡充していきます。

働きやすい環境づくり

仕事と家庭の両立を支援するため従業員の育児や介護に関する制度を整備しています。具体的には、育児・介護をしながら働く従業員を対象とした、休業および短時間勤務制度等があります。

また、今後は、最近の従業員を取り巻く労働環境の変化を受けて、メンタルヘルスケア施策の拡充を図るなど、働きやすい労働環境づくりに継続して取り組みます。



新入社員教育



キャリアセミナー

研修体験者の声



「社会人として自発性が重要であることを学びました。」

新入社員教育では、多くのことを学びましたが、特に印象に残っていることは、自ら動くことの必要性です。研修教育を通して、学生とは違い、誰かが何でも指示を出してくれるわけではないことを体感でき、臨機応変に今自分にできることは何かを考え、実行していくことの重要性を学びました。研修で学んだことを自身の基盤とし、今後の社会人生活に活用していこうと思います。

エンジニアリング本部
プロセス設計部
蒲田 知記

リスクコミュニケーション

■ 第10回CSR地域対話集会

2012年11月21日に行政機関、地域団体、地区役員、近隣企業の方々、クレハグループ関係者を含め総勢118名の参加をいただき、第10回CSR地域対話集会を開催いたしました。

今回は、『地域対話集会10年のあゆみと将来に向けて』というコンセプトを掲げ、いわき事業所が発表を行いました。「地域対話集会10年のあゆみ～地域の皆様と共に～」、「いわき事業所RC活動～環境・安全10年間の取り組み～」、「技術を育むマザー工場いわき事業所」という項目で、10年間取り組んできた活動内容を改めて紹介したと同時に、当社が目指すべき方向について紹介いたしました。

また、福島県環境センター企画管理課より「リスクコミュニケーションと各者の役割について」と題し、ご講話をいただきました。

地域との共生を維持するとともに、社会から一層の信用を得られるようCSR活動の取り組みを強化することを約束しました。



第10回CSR地域対話集会(2012年11月21日)



ロビーの掲示板

「地域との共生」をテーマに、従業員および地域の方々と互いに良好なコミュニケーションを保ちながら、その基盤の上にならば地域社会の発展に貢献できるよう取り組んでいます。

2012年度は、CSR地域対話集会が10回目を迎えました。これからも地域の方々との対話を大切に、様々な活動を紹介し、相互理解の場として継続してまいります。

■ ～ CSR 地域対話集会に寄せて～

「東日本大震災時にクレハグループが行ったCSR活動から『地域との共生』に対する真摯な姿勢が感じ取れました。」



一般社団法人 日本化学工業協会
レスポンシブル・ケア推進部長
吉原 紀幸氏

日本化学工業協会レスポンシブル・ケア(RC)委員会の会員事業所は、RC活動の成果を社会に公開し、社会との対話を通じて相互理解を深める活動を行っています。(株)クレハ生産本部いわき事業所は2003年から地域住民を招いた対話集会を始め、2012年で第10回の開催となりました。

同事業所はいわき市を代表する事業所の一つであり、地域発展の原動力として住民も期待しています。これらを受けて、事業所の従業員は「地域社会と共に生きる事業所」であることを自覚し、事故防止や環境保全等の活動に取り組み、地域対話集会を通じて地域住民とのコミュニケーションを深めています。印象に残るのは、東日本大震災時の事業所と呉羽総合病院の対応です。事業所は被災したプラントの安全確保に全力を尽くす一方で、被災した住民への風呂の提供や支援物資の調達・搬送を行い、また病院は医薬品・水・食糧の確保に最善を尽くして入院患者や外来患者の治療を継続しました。これらの対応状況については第9回の地域対話集会で詳しく説明され、住民から感謝の言葉が述べられました。

本地域対話集会は、いわき事業所が地域社会とともに成長していく重要な要素であり、今後もますます発展していくことを期待します。

～地域対話集会 10年のあゆみ～

第1回RC地域説明会(2003年11月11日)

- 勿来市民会館にて開催。東北では初のこころみ!
- RC活動の報告I(呉羽グループの活動)
- RC活動の報告II(保安防災/コミュニケーション活動)
- RC活動の報告III(環境改善活動)

第2回RC地域対話集会(2004年11月25日)

- RC活動報告I(化学物質の排出削減・臭気対策・保安防災)
- RC活動報告II(地域コミュニケーション活動・環境保全商品の開発)

第3回RC地域対話集会(2005年11月17日)

- いわき工場のRC活動・排水管理
- <呉羽環境部> 環境保全への取り組み
- <呉羽クレハエンジニアリング> 環境製品開発への取り組み



第3回RC地域対話集会(2005年11月17日)

第4回RC地域対話集会(2006年11月15日)

- KPS工場火災についてのお詫びと、火災再発防止策などの説明を発表。
- いわき工場のRC活動
- <呉羽クレハ環境> 環境保全への取り組み
- <呉羽クレハ分析センター> 事業について ～環境保全と健康への貢献～

第5回RC地域説明会(2007年11月14日)

- PRTR優秀賞2006受賞を報告。
- いわき事業所におけるレスポンシブル・ケア活動
- <呉羽クレハ環境> レスポンシブル・ケア活動
- <クレハ運輸部> レスポンシブル・ケア活動

第6回RC地域対話集会(2008年11月14日)

- 呉羽病院による介護老人保健施設「ガーデンア」紹介と見学を実施。
- いわき事業所のRC活動のあゆみ
- 環境・健康・資源を考えるクレハの製品
- <(社)呉羽会> 医療と介護を通しての地域参加

第7回RC地域対話集会(2009年11月13日)

- いわき事業所におけるレスポンシブル・ケア活動
- <呉羽クレハ環境> レスポンシブル・ケア活動報告
- <クレハ建設部> 環境・安全・地域にかかわる取り組み

第8回CSR地域対話集会(2010年12月1日)

- CSRレポートの作成・発表に伴い名称を変更。
- CSRの取り組みについて
- 安全文化構築に向けた取り組み
- 地域社会との共生
- <呉羽クレハ分析センター> 生活環境と人々の健康を守る分析

第9回CSR地域対話集会(2011年11月24日)

- 東日本大震災の影響によりいわき事業所にて開催。
- 東日本大震災からの復旧と地震対策
- 地域の皆様と共に
- <(社)呉羽会 呉羽総合病院> 東日本大震災時の状況と対応

第10回CSR地域対話集会(2012年11月21日)

- 地域対話集会10年のあゆみ ～地域の皆様と共に～
- RC活動 ～環境・安全10年間の取り組み～
- 技術を育むマザー工場 いわき事業所

地域との共生

■ 双方向のコミュニケーション紙「にしき」の発行

いわき事業所から地域の方々への環境や安全に関わる取り組み等の情報、および地域の方々の意見・要望などを相互に紹介するため、双方向のコミュニケーション紙「にしき」を発行しています。

「にしき」は、2002年8月1日創刊以来、年3回発行し、全従業員、グループ各社および周辺地区在住の皆様にお届けしています。

第30号では、近隣小学区への「理科授業支援活動」の様子を掲載、第31号では、「第11回オールクレハスポーツフェスティバル」の様子を掲載いたしました。そして、第32号では、「第10回CSR地域対話集会」開催の内容を掲載いたしました。



第31号「にしき」

第30号:2012年5月10日発行

- 小学校理科授業支援活動
- 地震対策

第31号:2012年10月30日発行

- 第11回オールクレハスポーツフェスティバル(復興記念大会)
- 事故ゼロをめざして

第32号:2013年1月30日発行

- 第10回CSR地域対話集会～10年のあゆみ～

■ 事業所見学

いわき事業所をもっとよく理解していただくために、近隣の方々を中心に積極的に見学を受け入れ、2012年度は、28件628名の方々にご見学いただきました。震災後、見学者は減少傾向にありましたが、徐々に増加しています。

毎年恒例の「ツアークレハ」は、小中学校の夏休み期間を利用し、従業員家族を招待して行う事業所見学です。震災復興後の事業所の様子や家族の働く職場を間近で見学しました。2012年度は18家族49名が参加されました。



「ツアークレハ」技能研修センターでの危険体感教育

■ 清掃ボランティア

いわき事業所の排水を放流する蛭田川の堤防の美化活動の他、「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」にあわせ、事業所の周囲約4kmにわたって国道・県道・市道の美化活動(除草・ゴミ拾い)を行っています。この活動は二十数年前から毎年行っています。

2012年度は、6月に事業所周囲を、10月に蛭田川と事業所周囲を合同で行い、計1,152名の従業員が参加しました。



事業所周囲清掃



蛭田川清掃

■ 第11回 オールクレハスポーツフェスティバル

クレハグループ各社の従業員とその家族の親睦、および地域の皆様との交流を深めることを目的として開催しているこのスポーツフェスティバルは、2012年度で第11回目を迎えました。2011年度は震災の影響により自粛したため、今年度は復興記念大会と称し開催しました。家庭用品キャラクター「キチントさん」を登場させたり、復興記念賞品を加えたりなど、大会を盛り上げました。近隣地区役員・商店会の皆様、オールクレハOBの皆様、勿来地区小・中学校の皆様を招待し、過去最高の約2,200人が参加して、秋の空に大きな歓声が響きました。



ナイス投球!(玉入れ)



「キチントさん」と大会役員

■ いわきおどり 勿来大会

震災の影響で2年ぶりの開催となり、地元企業や団体など23チーム約1,300人が参加しました。クレハグループからは約150人が参加し「復興は勿来から」を合言葉に、「ドンワッセ」の掛け声とともに、元気いっぱいの踊りを披露しました。

ライトアップされた会場には新調したクレハネイチャーグリーン(当社のコーポレートカラー)の浴衣がひととき映え、地域の皆様と一体となり、楽しいひとときを過ごしました。



いわきおどり勿来大会

社会貢献

■ 小学校理科授業と社会科見学

近隣の小学校3校の6年生を対象に、いわき事業所や研究所の従業員が講師を務める理科授業を行っています。2012年度は14年連続14回目を迎えました。

「水溶液の性質とはたらき」「液体窒素やドライアイスを使用した実験」や今年度は新たにクレハ製品を使用した実験「NEWクレラップのバリア性の実験」、「活性炭の色素吸着の実験」などを行い、子供たちに理科の楽しさを熱心に伝えました。

また、同小学校の5年生を対象に社会科授業の一環として、事業所見学を実施しました。



錦小学校理科授業風景



勿来二小事業所見学

■ エコキャップ運動

「再資源化」「CO₂削減」「世界の子供たちにワクチンを贈る」の3つのテーマを掲げたエコキャップ運動に貢献するため、2008年5月からクレハグループ全社において運動を開始し、これまで積極的に取り組んでいます。

2012年度までの実績は、累計981.2kg、ワクチン491人分、CO₂削減効果3,100kgです。



エコキャップの寄託

■ 医療での地域貢献

呉羽総合病院は、当社の附属診療所として1944年に開設され、1972年に社団医療法人呉羽会「呉羽総合病院」として独立しました。

現在では、いわき市南部の中核病院として広く県内外からの来院も増えております。

さらに、いわき市の福祉行政の一翼を担うため、介護老人保健施設「ガーデニア」を2008年3月に開設しました。医師による指導のもとで、看護および介護のケア、そして専門スタッフによるリハビリテーションや日常のサービスを行っています。特に、隣接した呉羽総合病院による、より安心かつ安全性の高い医療サービスをご利用いただけるのが大きな特徴です。

医療と介護の両面から、「安心と安全」をモットーにした介護サービスの提供を心掛けてまいります。



介護老人保健施設「ガーデニア」



呉羽総合病院

■ 献血運動

いわき事業所では、日本赤十字社からの依頼を受けて、毎年、年3回献血に協力をしています。

いわき事業所の献血活動は1987年(昭和62年)7月から開始し、2012年11月現在の累積人数は6,088人です。2007年には有功章の表彰をいただきました。



いわき事業所内移動献血バスでの献血

RC実施宣言

当社は、日本レスポンシブル・ケア協議会(現 社団法人日本化学工業協会 RC推進部)にその創設時から参加し、「化学物質の開発から生産・流通・廃棄に至る全ライフサイクルにわたって、環境および人々の安全を確保する企業の自主活動」、すなわちレスポンシブル・ケア(RC)活動の実施を1995年4月に宣言しました。

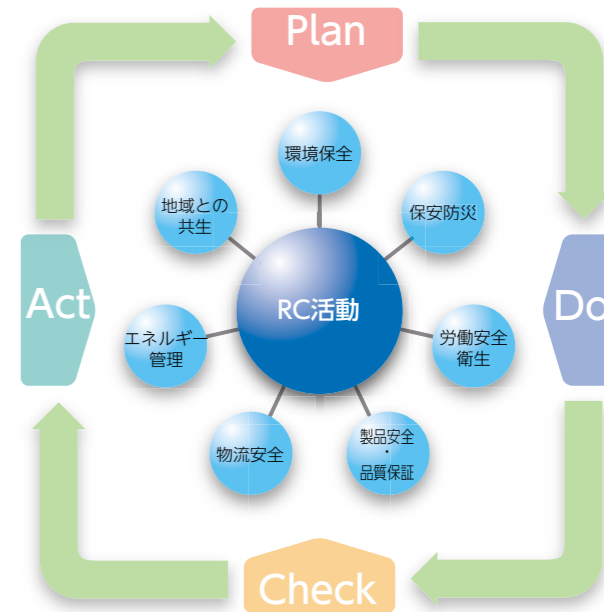
RC取り組み体制

クレハグループのRC活動は、社長直轄のRC委員会を中心に推進しています。委員長および委員は、社長から任命されます。RC委員会のもとには特定の課題について対応策を立案する委員会が置かれています。

また、グループ会社のRC活動を適切に推進するため、当社およびRC宣言したクレハグループ各社で構成するオールクレハRC協議会が設置されています。オールクレハRC協議会のもとに、環境保全、エネルギー管理、保安防災、労働安全衛生、製品安全・品質保証、物流安全、地域との共生の分科会が置かれ、クレハグループのRC活動状況や課題について情報交換等を行っています。

RCマネジメントシステム

当社では、環境マネジメントシステム(ISO14001)、品質マネジメントシステム(ISO9001)、労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS18001)を活用し、PDCA(Plan/計画、Do/実施、Check/点検・是正処置、Action/見直し)サイクルを回しながら、継続的な改善活動を行っています。



■ オールクレハ RC協議会構成図



環境負荷の全体像

当社の事業活動全体における主要なインプット(資源投入)とアウトプット(製品と環境負荷)を整理しました。



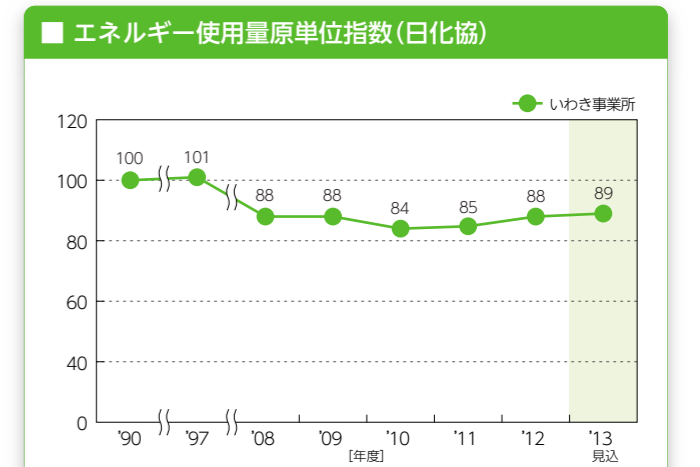
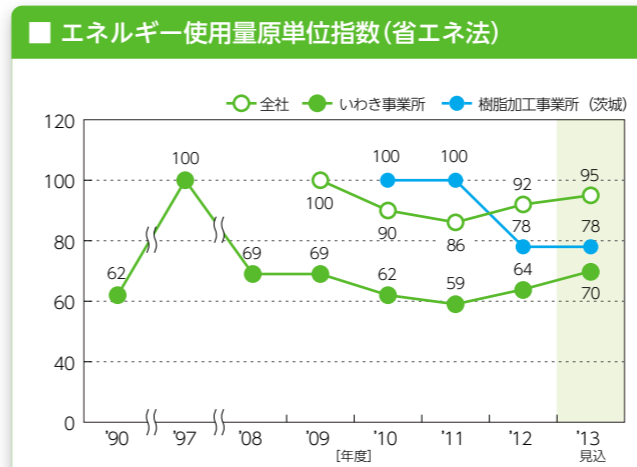
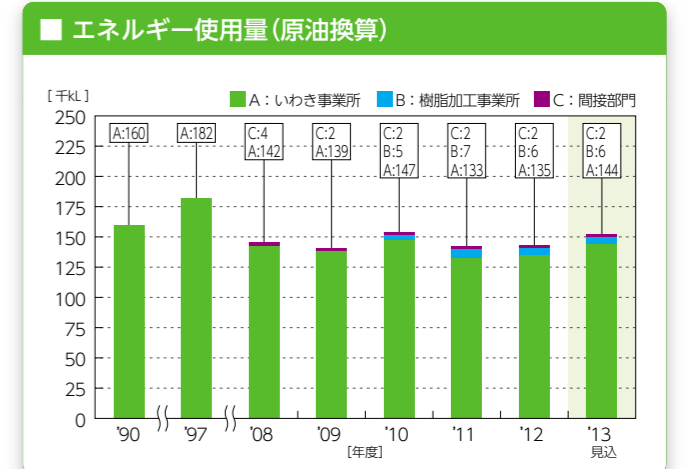
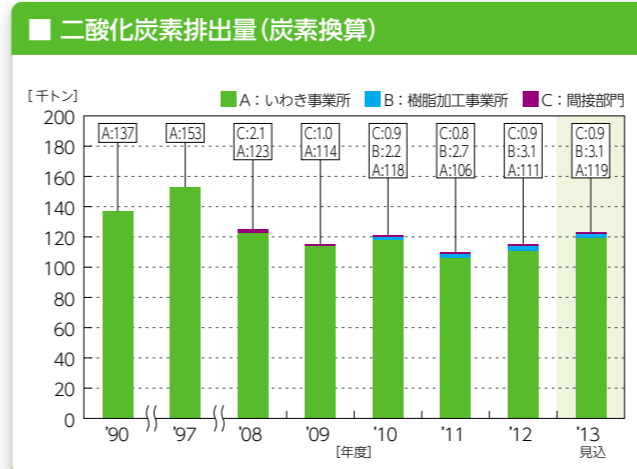
地球温暖化防止

1997年に京都で開催された第3回気候変動枠組条約締約国会議(COP3)において、京都議定書が採択され、日本は、2008年から2012年の5年間(第一約束期間)において温室効果ガス排出量を1990年度と比較して、6%削減することを目標として設定しました。

当社は、エネルギー使用の合理化と地球温暖化防止を方針として定め、エネルギー管理委員会を中心にして、エネルギー使用量原単位の低減、運転管理の改善、省エネ機器の導入を推進しています。その結果、当社のマザー工場であるいわき事業所では、1990年度と比較して、京都議定書第一約束期間の温室効果ガス排出量を15%削減しました。

一方、改正省エネ法において、事業者は中長期的に見て年平均1%以上のエネルギー使用量原単位の低減を目標とすることが定められています。当社は、特定事業者に指定されており、2010年度に、いわき事業所は第一種エネルギー管理指定工場になり、2011年度には、樹脂加工事業所(茨城)が第一種エネルギー管理指定工場、2012年度には、樹脂加工事業所(柏原)が第二種エネルギー管理指定工場になりました。

2012年単年度では、1990年度と比較して、いわき事業所では二酸化炭素排出量を約19%、エネルギー使用量を約16%削減しました。また、日化協算出方式・エネルギー使用量原単位指数では1990年度に対して12%低減しました。



● 省エネ法に基づきいわき事業所の1997年度のエネルギー使用量原単位(エネルギー使用量÷付加価値生産額)を100とした各年度の指数
○ 改正省エネ法に基づき全社の2009年度のエネルギー使用量原単位を100とした各年度の指数
● 改正省エネ法に基づき樹脂加工事業所(茨城)の2010年度のエネルギー使用量原単位(エネルギー使用量÷付加価値生産額)を100とした各年度の指数

会計制度を2012年度に変更したため付加価値生産額(減価償却)の算出方法が変更になり、いわき事業所は設備投資額が大きいためエネルギー使用量原単位の悪化に影響しました。

日化協エネルギー使用量原単位指数:
日化協 基準製品換算方式
A 製品(ソーダ)を基準とした場合の当該年度のエネルギー使用量原単位 = (A 製品製造総エネルギー + B 製品製造総エネルギー + C 製品製造総エネルギー) / (A 製品生産数量 + B 製品生産数量 × 換算係数 B90 + C 製品生産数量 × 換算係数 C90)
ただし、換算係数 B90 および換算係数 C90 とは、1990 年度(基準年度)における B 製品および C 製品のエネルギー使用量原単位の、A 製品のエネルギー使用量原単位に対するそれぞれの比率を示す。
エネルギー使用量原単位指数は1990年度の原単位を100とした各年度の指数。

RC 報告 環境負荷の低減に対する取り組み

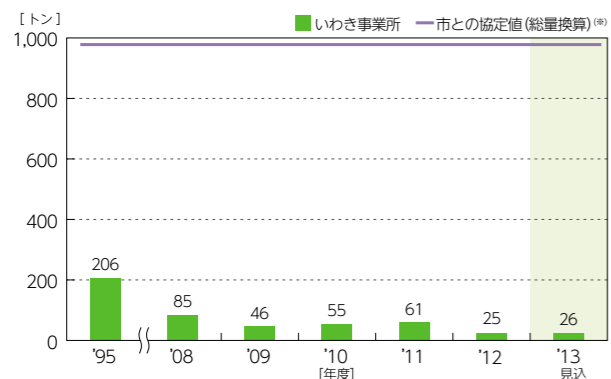
RC 報告 環境負荷の低減に対する取り組み

大気汚染防止

いわき事業所は、いわき市と大気汚染防止に関する公害防止協定を結び、硫黄酸化物(SOx)の排出量の上限を定めています。また、窒素酸化物(NOx)およびばい塵の排出量上限は、いわき市との協議の上、いわき事業所で自主管理値を定めています。いわき事業所では、これらの値を十分に達成した運転を継続しています。

SOx 排出量

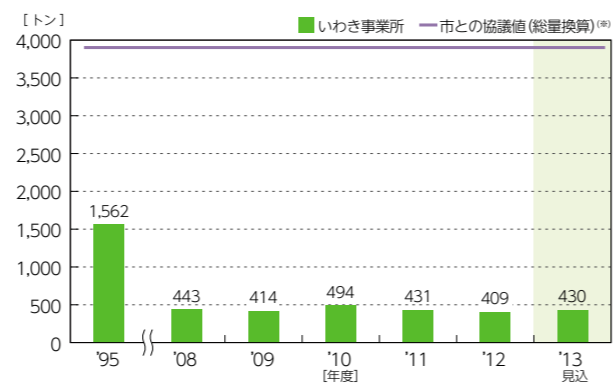
2006年度に発電設備のボイラーを更新したことで排出量は下がりました。以後、そのレベルを維持しています。2011年度は、ボイラー排ガス処理設備の一部に震災の影響が残り、最適運転時に比べて若干排出量が増加しましたが、2012年4月の定期修理において補修を完了し、2012年度は年間を通じて安定運転を継続しました。また、2010年度末に運転を終了した培土乾燥炉からの排出もなくなったこともあり、2012年度の排出量は2010年度実績よりも低減しました。



(※)いわき市との公害防止協定協議では、周辺環境への影響を最小限に抑制することを目的に、公害防止協定の協定値や法規制値より低い排出量を定め、その協定値をばい煙発生施設の届出値に反映しています。グラフには、2003年度時点の届出値を合算した総量換算値を参考として示しました。

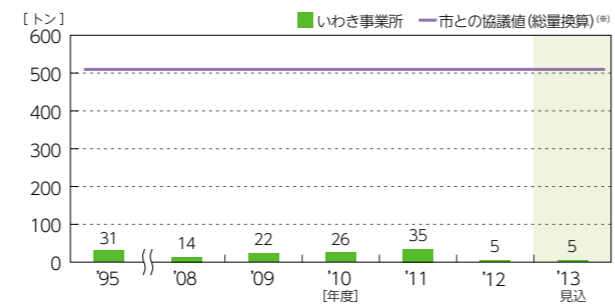
NOx 排出量

燃料が燃える際、燃料に含まれている窒素や空気中の窒素が酸素と結合して窒素酸化物(NOx)が発生します。ボイラーが主な発生源です。



ばい塵排出量

大気中に浮遊する粒子状の物質のうち、燃料等の燃焼や電気炉等の使用に伴って発生する煤をばい塵と呼んでいます。ボイラーが主な発生源です。SOxと同じく、2011年度は、ボイラー排ガス処理設備の一部に震災の影響が残り、最適運転時に比べて若干排出量が増加しましたが、2012年4月の定期修理において補修を完了し、2012年度は年間を通じて安定運転を継続しました。また、2010年度末に運転を終了した培土乾燥炉からの排出もなくなったこともあり、2012年度の排出量は2010年度実績よりも低減しました。



化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)

PRTR法とは、事業所から大気や公共水域などの環境へ排出されたり、廃棄物として移動された化学物質の量を、事業者が自ら集計し、都道府県を経由して国へ届け出る制度 (PRTR 制度) と、指定された化学物質およびそれを含有する製品を取り扱う事業者が、それらを他の事業者に譲渡等する際に、事前にその性状および取り扱いに関する情報を提供することを義務付ける制度 (SDS 制度) の実施により、事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境の保全上の支障を未然に防止することを目的とした法律です。

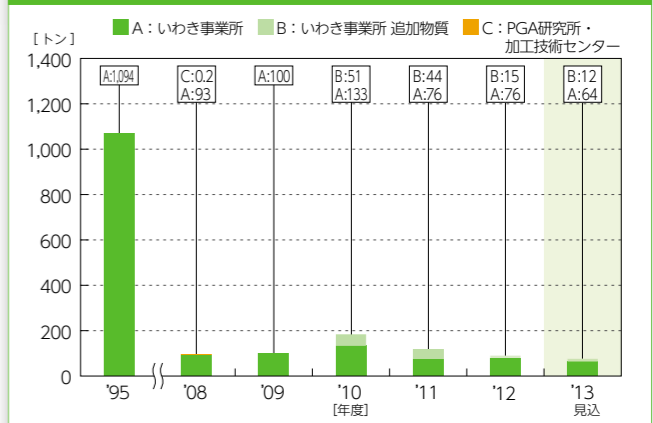
届出対象となっている化学物質 (第一種指定化学物質) は2009年度まで354物質でしたが、法改正により、2010年度からは462物質となりました。

2012年度の当社の第一種指定化学物質の排出量は、21物質で約91トンでした。n-ヘキサン排出量削減対策の進捗や

各プラントの安定運転継続等によって、排出量は前年比29トンの削減となりました。

排出量削減については、今後も継続的に取り組んでいきます。

PRTR法対象化学物質排出量



2013 年度 PRTR 法届出値 (2012 年度実績)

No.	政令番号	物質名	排出量 (kg)				移動量 (kg)	
			大気	公共水域	土壌	事業所内埋立	下水道	事業所外
1	9	アクリロニトリル	1,700	2	0	0	0	0
2	16	2,2'-アゾビスイソブチロニトリル	0	0	0	0	0	0
3	57	エチレングリコールモノエチルエーテル	270	0	0	0	0	0
4	71	塩化第二鉄	0	0	0	0	0	0
5	94	塩化ビニル	3,400	0	0	0	0	0
6	103	1-クロロ-1,1-ジフルオロエタン	3,000	0	0	0	0	1,500
7	104	クロロジフルオロメタン	1,600	0	0	0	0	0
8	125	クロロベンゼン	5,300	4	0	0	0	2,200
9	158	1,1-ジクロロエチレン	47,000	3	0	0	0	14,000
10	159	cis-1,2-ジクロロエチレン	0	0	0	0	0	1,200
11	181	ジクロロベンゼン	13,000	33	0	0	0	130,000
12	185	ジクロロペンタフルオロプロパン	0	0	0	0	0	3,400
13	243	ダイオキシン類 (mgTEQ)	0	9	0	0	0	59
14	280	1,1,2-トリクロロエタン	21	0	0	0	0	190
15	281	トリクロロエチレン	0	0	0	0	0	9,300
16	290	トリクロロベンゼン	23	0	0	0	0	810
17	302	ナフタレン	6,600	280	0	0	0	7,000
18	349	フェノール	1	0	0	0	0	0
19	392	n-ヘキサン	8,100	0	0	0	0	430
20	400	ベンゼン	1,100	1	0	0	0	400
21	420	メタクリル酸メチル	6	0	0	0	0	0

※ PRTR 法対象物質 (第一種指定化学物質) で、年間取扱量 1 トン以上の物質についての届出値です。
 ※ 事業所外へ移動した物質は全て焼却炉 (廃棄物処理場) で焼却処分しています。
 ※ いわき事業所は下水道に接続されていないため、下水道への移動量はありません。

担当者の声



「みんなの笑顔のために！」

RC・安衛グループは、RC活動、労働安全衛生、保安防災の確保、環境および労働安全衛生マネジメントシステムの効率的運用に取り組んでいます。地域の方には安心し、また信頼していただけるように、そして、常に従業員全員が「笑って出社し、笑って家族の元に帰る」ことができる職場環境の構築、維持を目指して頑張っています。

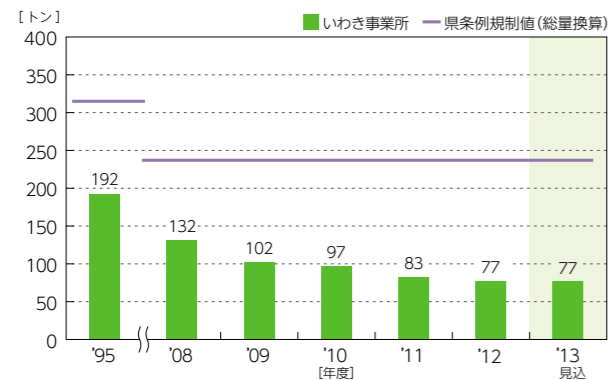
いわき事業所 環境・安全部
RC安衛グループリーダー
橋本 裕也

水質汚濁防止

いわき事業所は、水質汚濁防止法と福島県条例（生活環境の保全等に関する条例および水質汚濁防止法に基づく排水基準を定める条例）で定められた排出基準を遵守しています。

■ COD 排出量

化学的酸素要求量 (COD) は1995年度と比較し、50%以上の削減を達成しています。今後も削減に向け、努力していきます。



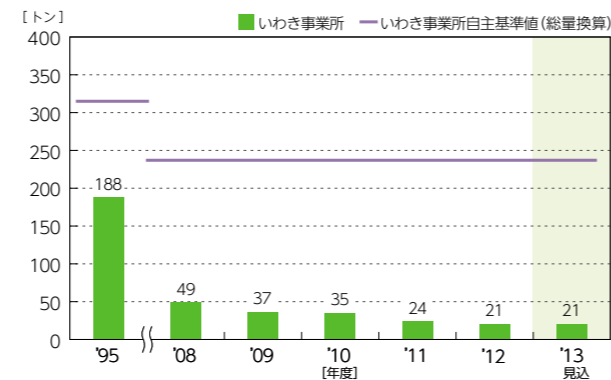
県条例規制値とは:

いわき事業所は「福島県水質汚濁防止法に基づく排水基準を定める条例」により工場排水CODの濃度規制を受けています。その条例に定められている排水基準を基に算出(濃度×排水量)したCOD総量換算値です。2001年度以降は排水量を削減したので、COD量としての規制値が低下しています。

各プラントでの排水管理の徹底、排水処理設備の改善検討や安定運転の継続を図り、排水水質の維持向上に努めています。

■ BOD 排出量

生物化学的酸素要求量 (BOD) は1995年度と比較し、80%以上の大幅な削減を達成しています。今後も削減に向け、努力していきます。



いわき事業所自主基準とは:

いわき事業所におけるBODの濃度規制は、水質汚濁防止法の規制を受けています。しかし、前述の条例に定められているBOD排出基準の方がより厳しい規制となっているため、条例の基準を自主基準と定めて管理しています。その自主基準をもとに算出したBOD総量換算値です。このBOD量自主基準もCODと同様に排水量削減により低下しています。

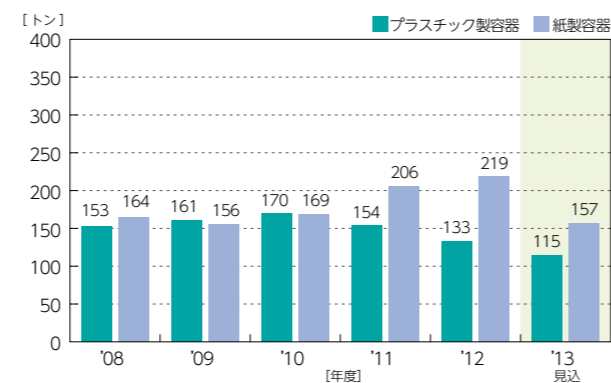
容器包装リサイクル法

2002年度から、主にプラスチックと紙の容器・包装の再商品化義務を履行しました。

公益財団法人日本容器包装リサイクル協会と再商品化委託契約を結び、着実に実施しています。

当社が再商品化義務を負う容器包装の量(再商品化義務量)の推移を右に示します。

■ 再商品化義務量



産業廃棄物の排出量削減とリサイクル

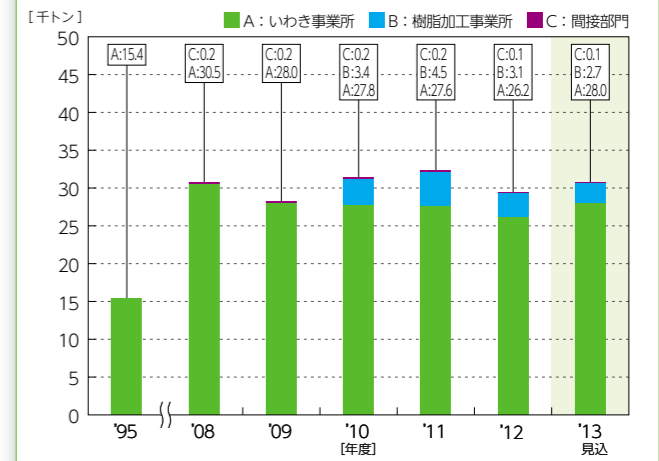
いわき事業所では、隣接する廃棄物処理会社である(株)クレハ環境等に産業廃棄物の処理を委託しています。また、自社で管理型の最終埋立処分場を持つなど、事業活動から排出される産業廃棄物の処理は重要な責務であるとの考えのもと、取り組んできました。

2006年度には石炭を燃料とするボイラーの稼働に伴い、廃棄物(石炭の燃え殻や集塵灰)の発生量が大きく増加しましたが、セメント等の原料として再資源化処理業者に委託することで、リサイクル率向上を図っています。

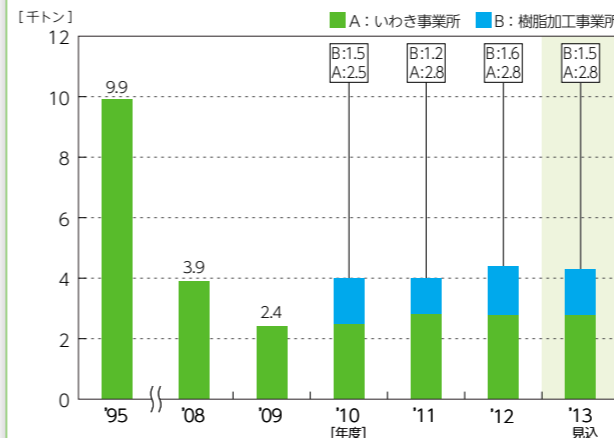
樹脂加工事業所では、製品収率向上、分別の徹底と再資源化による廃棄物の減量化を図っています。

今後も、廃棄物量の削減とリサイクル率の向上に努めていきます。

■ 廃棄物発生量



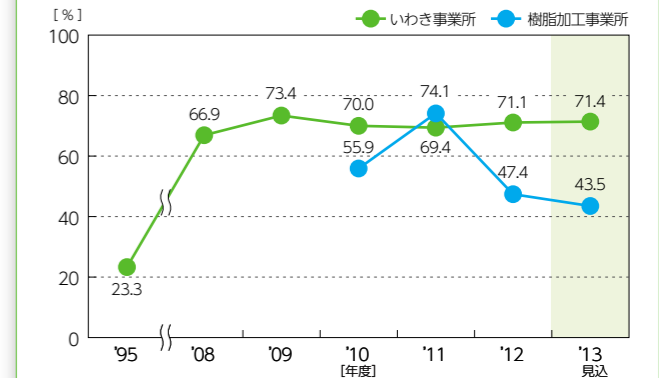
■ 廃棄物最終処分量



廃棄物最終処分量とは:

直接および中間処理(焼却減容化)後の廃棄物等を最終処分場に埋立処理した合計量です。

■ 廃棄物リサイクル率



廃棄物リサイクル率とは:

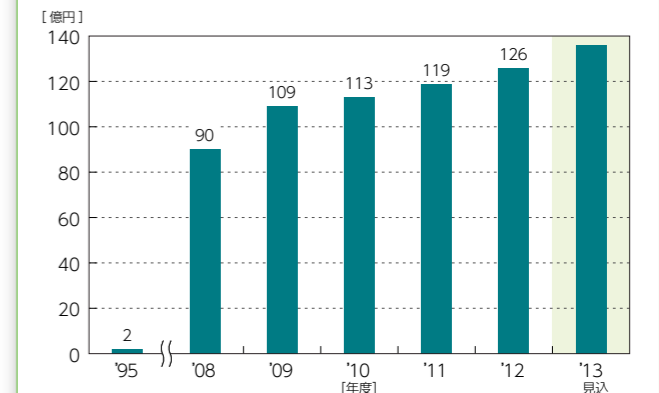
リサイクル使用した廃棄物(再利用、再資源化・有価物含む)と廃棄物の発生量の比(リサイクル量÷廃棄物発生量)です。

環境保全対策投資

2012年度の環境保全対策投資額は、676百万円でした。その内訳は次のとおりです。

- ①大気汚染防止関係 約 123百万円
- ②水質汚濁防止関係 約 449百万円
- ③省エネ省資源関係 約 24百万円
- ④廃棄物・緑化関係 約 80百万円

■ 環境保全対策投資累積額



保安防災

当社では、危険物・高圧ガス・毒劇物を多量に取り扱っています。このため、保安・防災は事業所の最も重要な責務であり、設備管理および運転管理を徹底して行っています。石油コンビナート等災害防止法、消防法、高圧ガス保安法、毒劇物取締法をはじめとする法律に定められた基準の遵守にとどまらず、自主的な管理基準の設定や設備の予防保全に取り組み、地域の信頼にさらに応えられるように保安・防災を強化しています。

■ 主な保安防災訓練

緊急事態において、各従業員に与えられた役割を迅速かつ的確に遂行できるように、実践に即した訓練を実施しています。

① 総合防災訓練

大規模地震による製造装置や屋外タンク等からの危険物の漏洩、火災発生等を想定した防災訓練をいわき事業所の全職場を対象に実施しています。2012年度は、11月6日に福島県沖を震源とする震度6弱の地震が発生したとの想定で、東日本大震災から学んだ教訓を反映させた訓練を行いました。グループ会社を含む従業員約1,450名が参加し、いわき市消防本部をはじめ、いわき市消防団第三支団、いわき南警察署、いわき市環境監視センター、近隣の区長・自治会長の25名の方々の監視の下、訓練を実施しました。

② 社長保安査察・防災訓練

2006年に発生したPPSプラントの事故を風化させないため、火災があった9月7日を「防災の日」に定め、毎年、この日の前後に社長による保安査察・防災訓練を実施しています。2012年度は、9月7日に機能材プラントで震度6弱の地震でガスの漏洩が起きたことを想定し、鎮圧活動や怪我人の救助活動の訓練を行いました。

③ 職場ごとの防災訓練

事業所全体の総合防災訓練とは別に、各職場では年間計画を立て、常備防災隊の指導の下で防災訓練を実施しています。

④ 樹脂加工事業所の防災訓練

樹脂加工事業所茨城地区では、小美玉市消防本部・玉里消防署員の立会のもと総合防災訓練を実施しました。目的は、生命や身体、財産(建屋・設備・他)を、地震や火災から保護するとともに、被害を最小限にすべく、各防災組織や消防用設備がきちんと機能を果たすことを確認することです。

内容は、フィルム押出工場の制御盤よりの出火を想定し、火災発見、発報、119番通報、初期消火、避難誘導、安否確認、負傷者の救護および伝令・通報の訓練を行いました。訓練後には、消防署員より総評をいただき、訓練の反省点を確認し今後

の消防活動の改善を進めています。柏原地区にても同日に同様な総合防災訓練を実施しました。また、両地区共に、訓練当日に実際の消火器での演習を行い、いざという時の正しい操作の指導も実施しました。

⑤ 事業所以外の防災訓練

本社、本社別館、加工技術センターでは、地元の消防署員の立会いの下で、防災訓練を実施しました。

いわき事業所
総合防災訓練いわき事業所
総合防災訓練いわき事業所
社長保安査察・
防災訓練樹脂加工事業所(茨城)
防災訓練

樹脂加工事業所

樹脂加工事業所は、1969年に、クレハプラスチック(株)として呉羽化学工業(株)(現 (株)クレハ)の食品包装材の製造部門が分離独立し、茨城県小美玉市の茨城工場と兵庫県丹波市の柏原工場で事業を行っていましたが、2010年7月1日に(株)クレハに統合されました。

主な生産品は家庭用包装フィルムの「NEWクレラップ」、ケチャップ・ソース等各種調味料用の「ボトル」です。

1. 活動概要

樹脂加工事業所の基本理念、基本方針、品質方針、環境方針、労働安全衛生方針を定め、ISO9001、ISO14001、OHSAS18001および改善小集団活動:TPMを活用し、全員参加で継続的な改善活動を推進しています。特に、食品工場並みの防虫管理体制にすべく工場の陽圧化等の設備改善を行う等、防虫対策や衛生性の維持に注力しています。

2. コンプライアンスへの取り組み

コンプライアンス体制は、組織・体制(規程、委員会、相談窓口、確認・検証)、行動基準、教育(導入、継続、新入社員、その他)からなります。

3. 環境保全活動

- 樹脂加工事業所茨城地区では、1年に2回、『霞ヶ浦グリーンウォーキング』を実施しています。事業所から霞ヶ浦までの沿道と霞ヶ浦湖畔を清掃しながらウォーキングすることによって、地域社会との共生の推進と環境保全に対する意識の向上を図りました。参加者は、70名を超えています。
- 柏原地区では事業所および柏原川周辺の清掃を目的とした『クリーン作戦』を1年に2回実施しています。
- 茨城地区では、地元の少年サッカーチームへグラウンドを解放し、スポーツの振興、青少年の健全育成にも寄与しています。



樹脂加工事業所基本理念および基本方針

2013年4月1日
樹脂加工事業所長

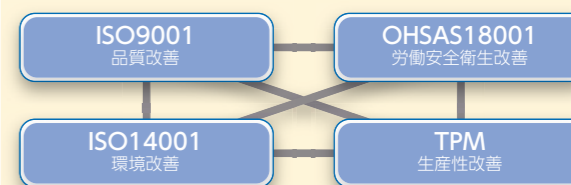
I. 基本理念

私たちは、戦略的コア事業である樹脂加工事業を担っている責任とプライドを持ち、『価値あるものづくり』を通じて人と自然にやさしいソリューションを提供し続けます。私たちは、常に革新と成長を行い、樹脂加工技術のブラッシュアップとイノベーションに挑戦し続けます。

II. 基本方針

- 事業方針・市場環境を的確に捉え、課題を自ら設定し挑戦します。
- 自ら提案・発言し、仲間と積極的に議論しチーム力を発揮します。
- 自己研鑽を重ね、業務遂行力アップに挑戦し続けます。
- 安心・安全な職場環境づくりを徹底し、「ゼロ災」を達成します。

■ RC活動を支える4本柱



4. 保安防災活動

総合防災訓練、救命訓練、夜間・休日連絡体制の整備を実施しています。

5. 労働安全衛生活動

- 定期的な危険予知訓練研修会の開催、安全・設備体感教育への参加、ヒヤリ・ハット活動、月例パトロール等『無事故・無災害が継続しており、安心して働ける快適で安全な職場を作り、全従業員が仕事と会社に誇りを持ち、生き生きとしている』ことを目指して活動しています。
- メンタルヘルス対策として、クレハ健康保険組合や関連部署とタイアップし、心の健康づくりにも取り組んでいます。

担当者の声

樹脂加工事業所
総務部長
浅羽 宏

「樹脂加工事業所の環境保全、保安防災、労働安全衛生に使命感を持って取り組みます。」

樹脂加工事業所は、主に「NEWクレラップ」と「ボトル」の生産を担当する事業拠点です。茨城県小美玉市、兵庫県丹波市の2拠点で生産活動を行っています。クレハの中核を担う事業所として、また地域社会の一員として、茨城・兵庫両拠点で、一体感、使命感を持ってCSR活動に取り組んでいます。

労働安全衛生

いわき事業所では、事故防止委員会や安全衛生委員会等の各種委員会の下、安全活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰を励行する5S運動、指差し呼称運動、危険予知活動等)を展開しています。

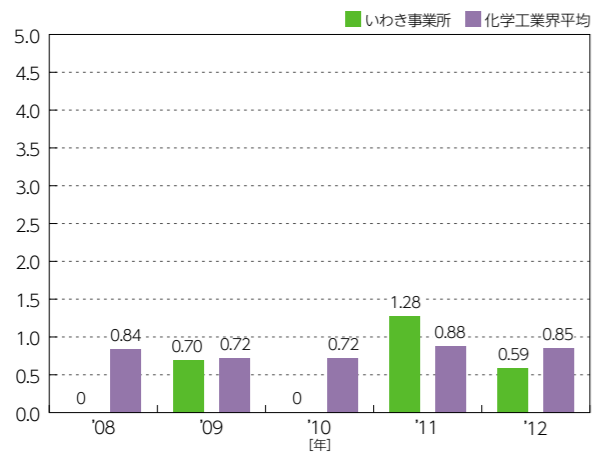
また、2004年度からは労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS18001)を導入し、職場の安全確保に取り組んでいます。特に、リスクアセスメントに力を入れており、事故の芽を徹底的に摘み取るようにしています。2012年度は製造部門でリスクと抽出された事象に対して、設備改善で対応した事例が

約78%、運用管理で対応した事例が約19%でした。これからも、事故の芽を放置することなく、設備改善につなげ、事故防止に努めていきます。

樹脂加工事業所では、OHSAS改善プログラムで危険源を90%以上削減し、指差呼称キャンペーン、危険予知訓練、安全設備体感研修への参加を実施しました。

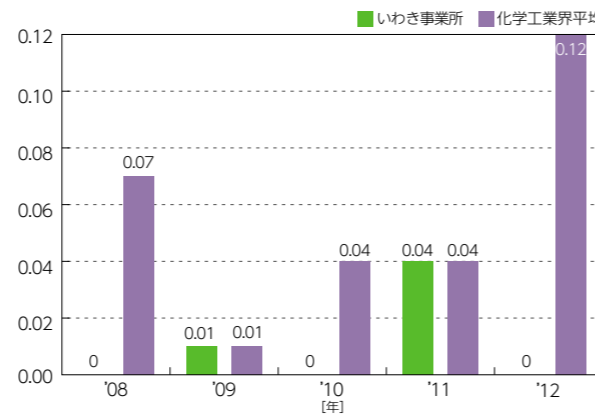
本社別館と加工技術センターは16年間、総合研究所・農薬研究所・新材料研究所・PGA研究所は8年間の無事故、無災害を継続しています。

■ 休業度数率 いわき事業所



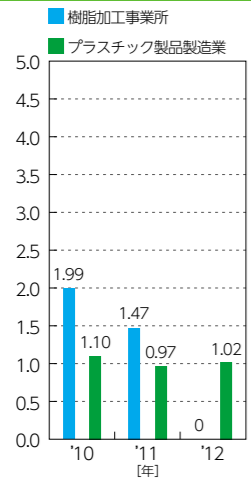
休業度数率：100万延労働時間あたりの死傷者の発生頻度を表す。
 休業度数率 = 休業災害(被災者数) ÷ 延労働時間数 × 1,000,000

■ 休業災害強度率 いわき事業所

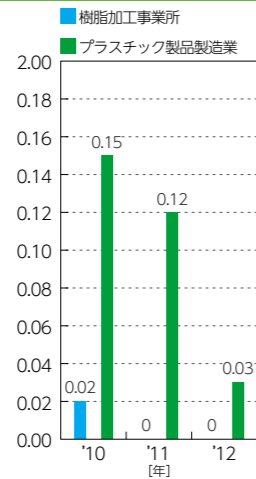


休業災害強度率：死亡、傷病による損失日数を、その年またはその月の延労働時間数で除し、1,000倍したもので、災害の程度の大小を知るための数値。
 休業災害強度率 = 総損失日数 ÷ 延労働時間数 × 1,000

■ 休業度数率 樹脂加工事業所



■ 休業災害強度率 樹脂加工事業所



■ いわき事業所安全大会

いわき事業所では、全国安全週間に合わせ、毎年安全大会を開催しています。2012年度は、安全活動結果報告に加え、三菱化学(株)環境安全・品質保証部長 加藤氏による講演が行われました。大会の最後には、173名の出席者全員によるゼロ災害達成に向けた指差唱和を行いました。



安全大会

■ 衛生週間特別講演会

いわき事業所では、毎年の衛生週間に合わせ、メンタルヘルスを含む衛生関連の特別講演会を開催しています。

2012年度はクレハ健康保険組合と共催し、スポーツトレーナーによる講演(「日常ながら運動で運動不足を解消し、生活習慣病を予防しよう」)を行いました。147名が参加し、日頃の運動不足解消の新たな方法を体感しました。



特別講演会

■ 技能研修センター

いわき事業所では、グループ会社・協力会社とともに保安防災・労働安全衛生に対する意識の高揚に努め、一丸となって労働災害、事故の撲滅に取り組んでいます。その取り組みの一環として、危険を疑似体感できる技能研修センターを2005年11月に開所し、2012年11月で8年目を迎えました。

2012年度は、いわき事業所およびグループ会社の従業員を対象として、前年度に続き主に救急救命体感を実施し、約700名が受講しました。いわき地区以外の事業所、グループ会社および近隣の企業・団体にも、希望する体感項目の受講を通じて、安全教育に活用していただいています。開所からの延べ利用者数は2013年3月末でクレハおよびグループ会社で約17,900名となっています。

今後は、救出体感と応急手当体感をいわき事業所およびグループ会社の従業員を対象として実施予定です。



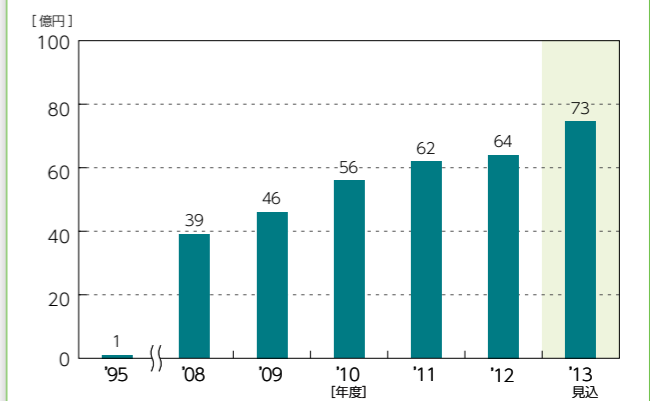
救出体感

■ 保安防災・労働安全衛生対策投資

保安防災・労働安全衛生対策投資額の推移を示します。継続的・計画的に、保安設備の改善と作業環境の維持・向上に努めています。

今後も継続して、保安の確保と労働安全衛生の向上に努めていきます。

■ 保安防災・労働安全衛生対策投資累積額



品質方針

いわき事業所で1996年にISO9001を認証取得し、2003年に対象を全社に拡大しました。2012年も最新版のISO9001:2008による維持審査に合格し、営業部門、間接部門を含めた当社品質マネジメントシステムの良好な運用状況が認証機関より評価されました。

2012年度の品質方針と主要テーマは以下のとおりです。

クレハ 品質方針

1. 私たちはお客様に一層満足していただけるよう、製品とサービスの品質向上に努めます。
2. お客様に安全な製品を提供し安心してご使用いただくことに努めます。
3. 保安防災を徹底し、製品の安定供給に努めます。

<2012年度主要テーマ>

- ① お客様のご要望を的確に把握し、品質マネジメントシステムの運用を強化することにより、品質の向上を図る。
- ② 製品の安全性リスクを把握し、製品安全に関する事故の発生を未然に防止する。
- ③ お客様の信頼性確保のために、外注製造先を適切に管理し、外注製品の品質を適正に確保することにより、重大な苦情発生を未然に防止する。
- ④ 「クレハ・パワーファイブ」を通して製造力を強化し、製造コストの低減を図り、競争力を高める。

この方針を受け各部署において毎年度、詳細な品質目標を策定し、進捗管理を実施しています。

製品安全・品質保証

当社では多様化し、グローバル化する法規制、お客様のご要望に対応し、安全な製品をご提供するために、積極的かつ的確な情報収集に努め、社内専門家により、それらを踏まえた新製品安全審査を当社自主基準に基づき実施しています。新製品安全審査は、製品設計、原料購入、製品品質、包装規格にわたり、製品の上市にあたっては、包装表示、広告・宣伝、SDS、知的財産権等の面からも厳格な審査を行っています。

製造や加工を外委託している製品については、国内外の委託メーカーに対し当社と同等の品質管理を求め、委託メーカーと一体となり、製品安全、製品品質の維持向上に努めています。

担当者の声



品質保証部(KRI)
いわきグループリーダー
会田 智之

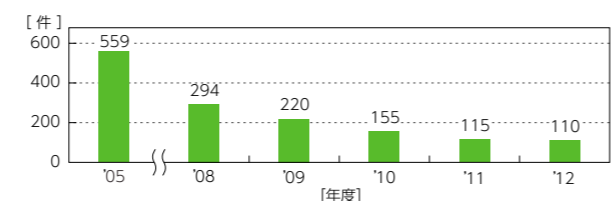
「お客様満足の向上に努めています。」

品質保証部では、事業部・製造部と共にお客様からの信頼とご要望に応えるため、適切な製品を提供するためのルールの提供・運用・監視・改善を行っています。また、様々な環境の変化に際して関係部署が適切で効率的な対応が可能となるように、ルールの見直しも随時行っていきます。

また、当社に対するお客様からの品質監査も積極的に受審しています。当社製造工程に対するお客様の視点によるご指摘、ご意見を基に確実な改善を実施し、苦情発生要因の撲滅を図り製品安全の向上に努めています。

当社品質マネジメントシステムの適切な運用により、お客様からの苦情受付件数も減少傾向にあります。

■ 苦情受付件数(苦情調査受付件数の推移)



安全性研究・評価センター

安全性研究・評価センターは、医薬品や農薬の安全性研究部門を前身として2012年7月に発足しました。当センターの役割は、これまでの医農薬開発で培った安全性研究、評価技術を基に、クレハで開発、使用される各種化学物質、素材、製品の安全性評価を実施し、環境やヒトの安全性に配慮した製品の開発、作業者の安全確保に貢献することです。

具体的には、センター内での安全性試験研究の実施や国内外の外部試験施設での委託試験の実施、各種文献調査により、化学物質の有害性に関する様々な情報を収集しています。そして、化学物質の使用用途や使用量、使用方法に応じた適切なリスク評価を実施し、製品の開発、生産、販売の各部門と連携して、より安全性の高い製品の開発に努めています。



細菌を用いた復帰突然変異試験

物流段階での環境負荷低減

物流分野における環境負荷低減は、改正省エネ法に基づき、特定荷主として毎年、エネルギー使用量削減計画の策定と実績報告が義務付けられ、エネルギー使用量原単位(エネルギー使用量/輸送重量)を年平均1%以上低減させる目標の達成に向けて、近年では以下の取り組みを行っています。

- ① 生産拠点からの直送化や車両大型化による輸送距離の短縮
- ② 共同配送など輸送の効率化による積載率の向上
- ③ 包装形態・荷姿変更による積載率の向上
- ④ 取引運送事業者によるエコドライブ推進や車両更新計画に沿った新型車両導入による燃費の向上

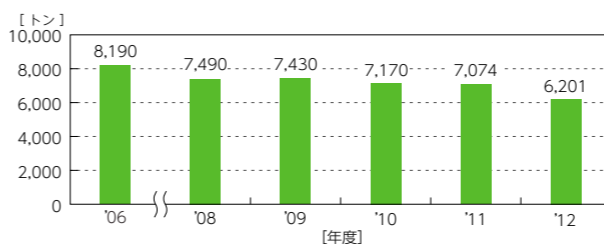
結果、2012年度のエネルギー使用量原単位は、基準年となる2006年度比で11%の減少、二酸化炭素排出量は1,989トンの減少となりました。

なお、2010年7月にはモーダルシフトの取り組みが評価され、「エコレールマーク」の取り組み企業認定ならびにNEWクレラップをはじめとする家庭用品の商品認定を受け現在も継続しております。

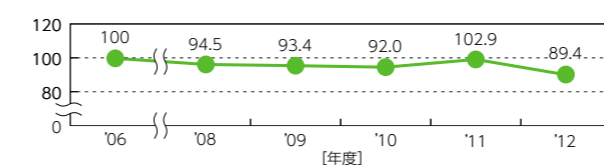
今後も関係部門と連携し、環境負荷低減に努めてまいります。



■ 特定荷主・二酸化炭素排出量



■ エネルギー使用量原単位指数



エネルギー使用量原単位指数:2006年度のエネルギー使用量原単位を100とした指数

物流事故対策

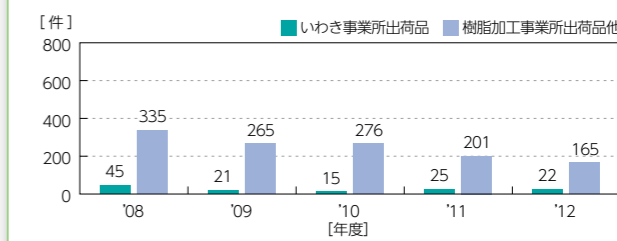
当社の取扱い製品は危険物や毒劇物などの化学薬品からクレラップなどの日用雑貨品まで多種多様にわたり、おのそのの荷姿や輸送方法が異なることから、物流事故の内容や発生原因も様々です。特にいわき事業所出荷品は危険物や毒劇物などタンクローリー輸送が中心のため、漏洩や異物混入など重大事故に繋がる事故は絶対に発生させる訳にはいきません。そのため当社の輸送の大部分を担うクレハ運輸では、ドライバーに取扱い製品の危険性を十分理解させ安全に納入ができるよう、定期的に安全作業実技訓練などの教育を実施しています。

一方、樹脂加工事業所出荷品はクレラップなど段ボールケース品での輸送が中心ですが、段ボールケースが直接化粧箱として店頭に並ぶ場合があることから、段ボールケースの破損やへこみなどの物流事故が大半を占めます。そのため、取引業者に対してはドライバーへの荷扱いに対する注意喚起と教育・指導の徹底を要請しています。

万一、物流事故が発生した場合は、速やかに物流事故発生報告書を提出することを義務付け、事故発生原因の究明と再発防止策の実施は適宜対応しています。さらには、定期的取引業者を交えて物流事故防止検討会を開催し、再発防止策の進捗状況および効果を確認し、より一層の物流事故防止に向けての取り組みの強化、徹底を図るよう要請しています。

また、新規の運送業者や倉庫業者、および既に起用している取引業者に対して、コストや物流品質の実態をチェックするために、取引先業者を定期的に訪問して物流業者評価を行っています。さらに、業務遂行上影響の大きい業者には、環境安全や品質保証部門と連携して、安全管理面(法令遵守、安全教育、事故対策、緊急時対応等)に重点を置いた物流監査を適宜実施し、物流事故防止に対する意識の高揚と促進に取り組んでいます。

■ 物流事故件数



株式会社クレハエンジニアリング

いつまでも信頼される企業として独自の品質・環境方針を定め、全員参加による仕事への取り組みを実践しています。



代表取締役社長
宮守 保

2012年度の主な取り組み

1 環境保全・品質管理

- ①ISO14001および9001を機軸とする複合マネジメントシステム運営において、環境、品質、その他の各方針に基づく目標を設定しています。
- ②高品質で環境負荷の低いプラント製品・工事・サービスを提供すべく、顧客満足の向上に取り組んでいます。

2 労働安全衛生

- ①元請事業所として、協力会社を含む全従業員の安全をより確実なものにするため、2012年度より独自の安全衛生マネジメントシステムを制定、運用を開始しました。
- ②リスクアセスメントおよび始業前 RKY の充実と実行を中心に事故防止を図っています。
- ③安全衛生委員会やクレハ安全協議会、ならびに協力会社と組織しているクレハエンジニアリング安全協議会を通じて、情報の共有化とコミュニケーションを図り、安全衛生に日々取り組んでいます。

3 地域との共生／清掃ボランティア

- ①年2回、「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」に参加し、会社に隣接する東側の市道と北側の県道路沿いを中心に、除草、ゴミ拾い、側溝掃除などの美化活動を行っています。



会社周辺の清掃活動

会社概要	
設立	1972年10月2日
資本金	2億4,000万円
売上高	57億円(2013年3月期)
従業員数	175名
本社所在地	福島県いわき市錦町落合135
事業内容	プラント設計・建設、設備メンテナンス業務
ホームページ	http://www.kureha-eng.co.jp/

株式会社クレハ環境

これからも、地域に根ざし、人と社会そして地球環境との調和を大切にする会社を目指してまいります。



代表取締役社長
谷口 伸幸

2012年度の主な取り組み

1 環境教育

- ①地域交流の一環として、福島県環境センター主催の「環境コミュニケーション in 勿来工業」へ講師の派遣を行いました。

2 地域交流・環境美化

- ①毎年、定期的に行っている草刈りや水路清掃の他、様々なボランティア活動に取り組んでいます。
- ②本社に隣接する公園「いこいの広場」と本社ロビーを一般に開放し、展示コーナーには、地域の皆様の作品を展示しています。



化学物質のリスクコミュニケーションに関する講義の様子

3 保安防災

- ①いわき本社では、地元の勿来消防署様と合同で総合防災訓練を実施しています。今年度も近隣地域の役員の方々にご視察頂きました。
- ②かながわ事業所においては、首都直下型地震を想定した防災訓練を実施しました。

4 地域環境対策

- ①臭気監視体制の構築を目的として、臭気センサーを増設し、臭気発生源の特定と予防に努めています。



総合防災訓練

5 クリーンエネルギー創出

- ①かながわ事業所では、従来よりサーマルリサイクルを行っており、バイオマス発電設備として、経済産業省による再生可能エネルギー発電設備の認定を受けました。
- ②いわき本社においても、本社屋上に太陽光パネルを設置し、経済産業省による認定を受け、グリーンエネルギーの創出を行っています。



本社屋上の太陽光パネル

会社概要	
設立	1971年12月1日
資本金	2億4,000万円
売上高	74億7300万円(2013年3月期)
従業員数	327名
本社所在地	福島県いわき市錦町四反田30番地
事業内容	環境事業
ホームページ	http://www.kurekan.co.jp/

KST 株式会社クレハ分析センター

高い分析評価技術で、生活環境を守り、人々の健康で豊かな生活に貢献する企業を目指し、「品質と信頼」でお応えしてまいります。



代表取締役社長
吉元 恵一

2012年度の主な取り組み

1 環境保全、保安防災

- ①大気、排水、廃棄物の適正管理と社内防災訓練および(株)クレハいわき事業所の総合防災訓練へ参加し、緊急時に備えました。

2 労働安全衛生

- ①作業環境の自主測定により有機溶剤や特化物取扱い作業環境の安全性を確認しました。リスクアセスメントを活用し、事故防止に取り組めました。

3 マネジメントシステム

- ①(株)クレハいわき事業所の管理単位としてISO9001、ISO14001、OHSAS18001の認証を受けています。

4 顧客満足度向上 (CS)

- ①社内での分析基礎教育や外部講習会参加者によるセミナー報告会により、分析技術の向上に努めました。
- ②また、外部機関による精度管理事業に参加し、精度管理の向上を図りました。
- ③品質事故事例報告会を開き、類似品質事故の防止を図りました。社内での品質内部監査を継続実施しました。

5 地域交流活動

- ①地元の高校、高専、大学の学生を受け入れ、企業体験教育に協力しました。

6 トピックス

- ①2012年11月にAED(自動体外式除細動器)を導入し、勿来消防署でAED取扱い実習を含む普通救命講習に21名参加しました。今年度も講習会への参加を継続します。



導入したAED



勿来消防署での普通救命講習

会社概要	
設立	1990年11月14日
資本金	5,000万円
売上高	13億3,600万円(2013年3月期)
従業員数	137名
本社所在地	福島県いわき市錦町落合16
事業内容	製品等検査および環境・理化学分析、医薬関連分析
ホームページ	http://www.kureha-bunseki.co.jp/

R レジナス化成株式会社

新たに東広島工場を操業し、全従業員で品質・環境・安全の向上と、RC活動の推進に取り組んでおります。



代表取締役社長
高山 幸義

2012年度の主な取り組み

1 保安防災

- 10月23日を防災の日と定め毎年自主訓練を行い、震災後は津波に対する対応も訓練に取り入れ、地震と火災の複合災害等にも対応できるよう取り組んでいます。

2 労働安全衛生

- 作業行動・化学物質のリスクアセスメントも終了し、2か月に一度の安全パトロールで従業員全員が安全意識を身につける事を第一に考え取り組んでいます。

3 製品安全

- 電気・電子業界の各お客様に対するグリーン調達基準への適応、また、法改正に伴う製品SDSの逐次改訂は的確に対応しています。

4 マネジメントシステム

- ISO9001、ISO14001は工場業務の運用ツールとして定着し、継続的な改善を行っています。

5 リスク管理

- リスクヘッジおよび増産のため建設中だった東広島工場(広島県東広島市)の操業を2013年3月から開始しました。4M変動申請も顧客承認を順次得ながら、本格的な生産に向け始動を開始しています。



東広島工場



会社概要	
設立	1972年10月18日
資本金	8,000万円
売上高	17億5,000万円(2013年3月期)
従業員数	66名
本社所在地	東京都中央区日本橋堀留町1-2-10 イトーピア日本橋SAビル
事業内容	エポキシ樹脂を中心とした接着剤の製造、販売
ホームページ	http://www.kureha-trading.co.jp/

Extron™ 日本エクストロン株式会社

信頼されるパートナーを目指し、マネジメントシステムを基にした品質向上、環境保全活動に積極的に取り組んでおります。



代表取締役社長
梶田誠一郎

2012年度の主な取り組み

1 活動全般

- ①当社は、ステークホルダーの皆様から信頼されるパートナーを目指し、クレハグループ倫理憲章とRC方針に則り様々な活動を推進しています。特にRC活動は、ISO9001とISO14001を基に品質向上ならびに環境保全活動に取り組んでいます。
- ②大田区産業振興協会主催の「人に優しい・まちに優しい『優工場』」の認定を受け、地域に密着し幅広く世界に貢献すべく活動を継続しています。

2 環境保全

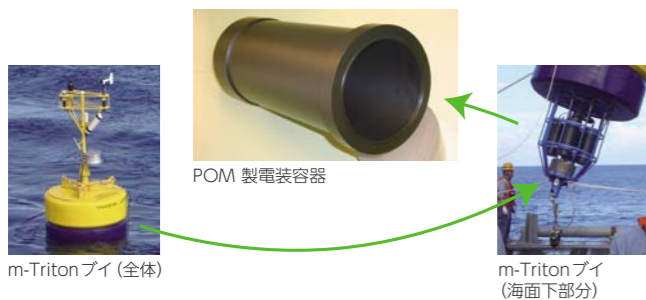
- ①省エネの推進と廃棄物の削減を目標に継続的に取り組んできました。従来から東京都の省エネ診断を受け、節電と省エネに関する助言をいただきながら継続的に節電対策に取り組んできました。
- ②工場のある工業団地の環境美化活動を率先して行い、地域社会活動に積極的に参加しています。

3 環境に優しい商品の提供

- ①当社の切削用素材から加工した部品類が、太陽光発電、燃料電池やエコカー等のグリーン商品に多く使用され始めました。引き続き品質管理の継続的改善と新たなエコ材料の提供に努めていきます。

《商品例》

海洋ブイ容器（資料提供：独立行政法人海洋研究開発機構）
独立行政法人海洋研究開発機構が開発し、地球温暖化監視に設置されているm-Triton ブイに採用されています。軽量で海中生物が付着し難かつ剥がれ易い地球環境に優しい商品です。



会社概要	
設立	1964年8月19日
資本金	8,500万円
売上高	13億円(2013年3月期)
従業員数	50名
本社所在地	東京都大田区昭和島2-4-4
事業内容	樹脂加工・販売(成型品)
ホームページ	http://www.nihonextron.co.jp/

Krehalon Krehalon Industrie B.V.

マネジメントシステムを基にした活動と、PDCAレビューで、各種プロジェクトの進捗と活動の推進を図っています。



取締役社長
Henk Boersma

2012年度の主な取り組み

1 マネジメントシステム

- ①当社は1998年にISO9001の認証を取得し、2000年にはISO14001の認証を取得しました。当社のRC活動は、この2つのISO規格を基に品質向上ならびに環境保全活動に取り組む中で、基本的な活動を行っています。
- ②毎年の事業活動のPDCAサイクルに基づきレビューするため、「YEAR PLAN」を定め、この中で、品質管理、環境保全、安全衛生管理の具体的な活動、目標、責任者を定め、各種プロジェクトの進捗を毎四半期にレビューすることを通じて、活動の推進を図っています。

2 環境保全

- ①産業廃棄物の削減に努めてきた結果、2012年度のリサイクル率は98%になりました。

《商品例》

当社の自動包装システム向け多層収縮フィルムは、従来の収縮バッグと比較して、お客様のプラスチック使用量削減に寄与し、サステナビリティに貢献する製品です。



チーズ包装用
クレハロンFSフィルム



Krehalon Industrie B.V.
本社工場

会社概要	
設立	1973年10月1日
資本金	272万2,000ユーロ
売上高	4,126万6,264ユーロ(2012年12月期)
従業員数	202名
本社所在地	Londenstraat 10, P.O.Box 414, 7400 AK Deventer, The Netherlands
事業内容	樹脂加工・販売(食品包装材)
ホームページ	http://www.krehalon.com/

上海呉羽化学有限公司

品質向上、環境保全はもとより、グループの基準に沿った、独自の行動基準で、コンプライアンスの啓蒙・教育を推進しています。



董事・総経理
岩本 茂樹

2012年度の主な取り組み

1 コンプライアンス

- ①クレハグループの行動基準に沿った、コンプライアンス行動基準書を独自に作成し、社員へ啓蒙・教育活動を定期的実施しています。

2 品質保証

- ①顧客満足度を引き上げて行くことを目標とし、お客さまからの問い合わせに迅速に対応することを心がけています。
- ②ISO9001に沿って、品質管理技術の維持と向上を進めています。

3 環境保全

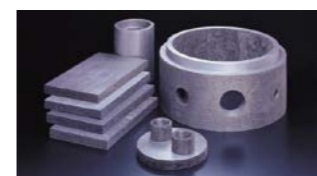
- ①関係する国際公約、国家法規を遵守することを誓うとともに、環境保全に関する情報入手に積極的に取り組み、ISO14001に沿って、より環境に優しい物づくりへの改善に日頃から取り組んでいます。

4 保安防災に対する取り組み

- ①設備保全、5S 活動、防災訓練などを通じて、事故や災害が発生しにくい職場環境形成に努めています。
- ②従業員一人一人にとって快適な職場であるかを、自問自答しながら自助改善の精神で取り組んでいます。

《商品例》

当社の主力製品はピッチ系炭素繊維製の成形断熱材クレカFRです。被焼成物に高品質が要求される1000℃～2500℃の高温炉の断熱材として、セラミックや金属、LED用サファイヤ焼結、電気自動車用磁性材料の熱処理や、太陽光発電パネルや半導体用のシリコン結晶の製造等に使用されています。



クレカFR



使用例

会社概要	
設立	2003年4月30日
資本金	10,700千米ドル
売上高	63百万元(2012年12月期)
従業員数	82名
本社所在地	中国上海市嘉定工业区兴荣路1585号
事業内容	炭素繊維製耐熱材料の製造・販売
ホームページ	http://www.kureha.sh/

Kureha Advanced Materials LLC

労働安全衛生方針を制定し、労働安全衛生チームを設け、安全で環境に優しい職場環境維持に努めています。



取締役社長
Fred Daniell

2012年度の主な取り組み

1 環境保全

- ①環境保護、地域社会との共生を目的として、2011年に黒鉛化炉からの排ガスを処理する最新技術を備えた処理装置を導入しました。

2 労働安全衛生

- ①労働者の安全を守るため、労働安全衛生方針を制定しています。安全で環境に優しい職場環境を維持するため、労働安全衛生チームを設け、毎月ミーティングを行っています。そのチームは、労働災害補償を請負う保険会社により認定されており、安全問題の解決を図り、労働安全衛生手順書の準拠の奨励や事故報告書のレビューを行っています。
- ②施設を拡張したことで、生産量を増加させると同時に、より安全で効率的な作業環境を構築しました。特に、作業エリアを拡張することで、作業の安全性が向上しました。
- ③また、工場内各所の大気中の粉塵濃度測定を行い、作業環境の安全性確保に努めています。



装着可能な大気環境分析装置



新設の梱包エリア

3 品質保証

- ①当社はお客様のニーズに応え、期待を超えられるように努めています。ISO9000シリーズに基づいた管理システムの下、品質保証活動を行い、原材料調達、生産や検査/試験の全工程で品質を管理しています。例えば、生産工程では各工程を隔離し、異物混入の可能性を軽減しています。この管理システムにより、お客様に信頼していただける製品を提供しています。

会社概要	
設立	2007年1月1日
資本金	490.2千米ドル
売上高	3,725千米ドル(2012年12月期)
従業員数	16名
本社所在地	10 Acee Drive, Natrona Heights, PA, 15065 USA
事業内容	炭素繊維製耐熱材料の製造
ホームページ	http://www.kureha.com/

■ パフォーマンスデータ

クレハ エクステック株式会社

認証取得マネジメントシステム	取得年月
環境 (ISO14001)	2007年3月
品質 (ISO9001)	1999年2月

項目	単位	2008	2009	2010	2011	2012
エネルギー使用量 (原油換算)	kL	1,263	1,142	871	814	683
エネルギー使用量原単位 (対売上)	kL/百万円	0.69	0.77	0.40	0.42	0.43
二酸化炭素排出量 (炭素換算)	トン	646	584	369	341	335
労働災害発件数	件	0	0	0	0	0
死亡災害発件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	193	165	163	146	137
休業度数率	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
休業災害強度率	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
設備災害発件数	件	0	0	0	0	0
物流事故件数	件	0	0	0	0	0
廃棄物発生量	トン	373	267	378	314	264
リサイクル量	トン	349	238	349	297	247
リサイクル率	%	94	89	92	95	94
埋立量	トン	24	29	29	17	17

KGC クレハ合繊株式会社

認証取得マネジメントシステム	取得年月
環境 (ISO14001)	2005年3月
品質 (ISO9001)	2003年4月
労働安全衛生 (OHSAS18001)	2006年6月

項目	単位	2008	2009	2010	2011	2012
エネルギー使用量 (原油換算)	kL	1,181	926	1,068	1,024	949
エネルギー使用量原単位 (対売上)	kL/百万円	0.49	0.45	0.42	0.34	0.27
二酸化炭素排出量 (炭素換算)	トン	518	596	530	503	470
労働災害発件数	件	1	0	0	0	0
死亡災害発件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	227	195	231	229	206
休業度数率	-	4.48	0.00	0.00	0.00	0.00
休業災害強度率	-	0.92	0.00	0.00	0.00	0.00
設備災害発件数	件	0	2	0	0	1
廃棄物発生量	トン	361	224	178	218	297
リサイクル量	トン	268	179	134	164	228
リサイクル率	%	74	80	75	75	77
埋立量	トン	94	45	45	55	70
PRTR 法届出物質数	件	1	1	0	0	0
大気排出量	kg	0	0			
外部移動量	kg	213	54			

クレハ運輸株式会社

認証取得マネジメントシステム	取得年月
環境 (ISO14001)	2007年3月
品質 (ISO9001)	2001年8月

項目	単位	2008	2009	2010	2011	2012
エネルギー使用量 (原油換算)	kL	2,668	2,661	2,554	2,626	2,495
エネルギー使用量原単位 (対売上)	kL/百万円	0.21	0.25	0.23	0.25	0.24
二酸化炭素排出量 (炭素換算)	トン	1,905	1,873	1,889	1,937	1,871
労働災害発件数	件	0	4	0	1	0
死亡災害発件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	788	762	756	682	674
休業度数率	-	0.00	5.25	0.00	1.47	0.00
休業災害強度率	-	0.00	0.12	0.00	0.24	0.00
設備災害発件数	件	0	0	0	0	0
物流事故件数	件	37	46	28	42	48
廃棄物発生量	トン	28	41	40	42	48
リサイクル量	トン	28	36	35	35	38
リサイクル率	%	100	87	87	83	79
埋立量	トン	0	0	0	0	0
PRTR 法届出物質数	件	4	4	4	4	4
大気排出量	kg	38	36	39	34	35
外部移動量	kg	0	0	0	0	0

*集計範囲：クレハ運輸グループ

クレハ錦建設株式会社

認証取得マネジメントシステム	取得年月
環境 (ISO14001)	2005年7月
品質 (ISO9001)	2000年12月
労働安全衛生 (OHSAS18001)	2008年3月

項目	単位	2008	2009	2010	2011	2012
エネルギー使用量 (原油換算)	kL	74	87	90	87	87
エネルギー使用量原単位 (対売上)	kL/百万円	0.004	0.007	0.008	0.006	0.006
二酸化炭素排出量 (炭素換算)	トン	36	43	44	37	37
労働災害発件数	件	0	0	0	0	0
死亡災害発件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	659	663	636	610	593
休業度数率	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
休業災害強度率	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
設備災害発件数	件	0	0	0	0	0
廃棄物発生量	トン	16,155	7,532	10,130	21,087	21,606
リサイクル量	トン	8,213	6,370	8,429	18,482	19,331
リサイクル率	%	51	85	83	88	90
埋立量	トン	7,942	1,162	1,701	2,606	2,275

株式会社クレハエンジニアリング

認証取得マネジメントシステム	取得年月
環境 (ISO14001)	2004年12月
品質 (ISO9001)	2002年4月

項目	単位	2008	2009	2010	2011	2012
エネルギー使用量 (原油換算)	kL	453	468	486	424	154
エネルギー使用量原単位 (対売上)	kL/百万円	0.03	0.04	0.06	0.04	0.03
二酸化炭素排出量 (炭素換算)	トン	254	252	265	233	76
労働災害発件数	件	0	0	0	0	0
死亡災害発件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	744	667	629	605	366
休業度数率	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
休業災害強度率	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
設備災害発件数	件	1	0	3	5	2
廃棄物発生量	トン	19,197	809	1,241	1,542	5,868
リサイクル量	トン	17,590	131	921	694	4,738
リサイクル率	%	92	16	74	45	81
埋立量	トン	1,187	325	256	495	755

株式会社クレハ環境

認証取得マネジメントシステム	取得年月
環境 (ISO14001)	1998年3月

項目	単位	2008	2009	2010	2011	2012
エネルギー使用量 (原油換算)	kL	10,600	2,527*	4,288*	3,554*	3,551*
エネルギー使用量原単位 (対売上)	kL/百万円	2.13	0.70	0.97	0.57	0.48
二酸化炭素排出量 (炭素換算)	トン	27,732	22,734	25,148	29,745	29,700
労働災害発件数	件	1	0	0	0	0
死亡災害発件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	441	431	489	513	631
休業度数率	-	2.26	0.00	0.00	0.00	0.00
休業災害強度率	-	0.39	0.00	0.00	0.00	0.00
設備災害発件数	件	0	0	0	0	0
廃棄物発生量	トン	24,800	15,449	20,436	37,539	33,282
リサイクル量	トン	3,427	1,988	2,209	2,478	1,955
リサイクル率	%	14	13	11	7	6
埋立量	トン	21,373	13,461	18,227	35,069	31,327
PRTR 法届出物質数	件	30	30	31	30	30
公共水域排出量	kg	7,224	5,552	6,180	2,870	2,634
外部移動量	kg	0	0	0	0	0

*2009年度エネルギー使用量の集計から再生油分を削除しました。

■ パフォーマンスデータ

KST 株式会社クレハ分析センター

認証取得マネジメントシステム	取得年月
環境 (ISO14001)	2001年5月
品質 (ISO9001)	1996年2月
労働安全衛生 (OHSAS18001)	2004年6月

項目	単位	2008	2009	2010	2011	2012
エネルギー使用量 (原油換算)	kL	300	314	397	379	412
エネルギー使用量原単位 (対売上)	kL/百万円	0.20	0.24	0.30	0.29	0.31
二酸化炭素排出量 (炭素換算)	トン	121	127	155	148	239
労働災害発件数	件	1	0	0	0	0
死亡災害発件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	266	240	260	248	242
休業度数率	-	3.76	0.00	0.00	0.00	0.00
休業災害強度率	-	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00
設備災害発件数	件	0	0	0	0	0
廃棄物発生量	トン	25	30	35	27	26
リサイクル量	トン	1	3	4	3	3
リサイクル率	%	5	8	11	11	12
埋立量	トン	0	0	0	0	0
PRTR 法届出物質数	件	1	1	1	1	1
大気排出量	kg	35	20	19	28	27
外部移動量	kg	1,286	1,040	1,207	1,207	1,002

R レジナス化成株式会社

認証取得マネジメントシステム	取得年月
環境 (ISO14001)	2004年4月
品質 (ISO9001)	2000年7月

項目	単位	2008	2009	2010	2011	2012
エネルギー使用量 (原油換算)	kL	281	409	421	433	509
エネルギー使用量原単位 (対売上)	kL/百万円	0.22	0.29	0.22	0.27	0.29
二酸化炭素排出量 (炭素換算)	トン	139	203	209	177	293
労働災害発件数	件	0	0	0	1	0
死亡災害発件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	84	80	88	95	106
休業度数率	-	0.00	0.00	0.00	10.50	0.00
休業災害強度率	-	0.00	0.00	0.00	1.02	0.00
設備災害発件数	件	0	0	0	0	0
廃棄物発生量	トン	69	38	75	72	69
リサイクル量	トン	14	13	19	15	13
リサイクル率	%	20	35	26	26	19
埋立量	トン	56	25	55	57	56
PRTR 法届出物質数	件	5	5	4	4	5
大気排出量	kg	1	1	5	5	10
外部移動量	kg	1,976	1,828	270	205	216

Extron™ 日本エクストロン株式会社

認証取得マネジメントシステム	取得年月
環境 (ISO14001)	2004年1月
品質 (ISO9001)	2002年8月

項目	単位	2008	2009	2010	2011	2012
エネルギー使用量 (原油換算)	kL	572	430	555	517	402
エネルギー使用量原単位 (対売上)	kL/百万円	0.43	0.42	0.41	0.37	0.32
二酸化炭素排出量 (炭素換算)	トン	249	209	212	201	160
労働災害発件数	件	0	2	4	3	2
死亡災害発件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	99	97	97	89	92
休業度数率	-	0	21	41	34	22
休業災害強度率	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01
設備災害発件数	件	0	1	0	0	1
廃棄物発生量	トン	99	68	94	92	84
リサイクル量	トン	68	65	90	89	81
リサイクル率	%	69	95	95	98	97
埋立量	トン	30	3	4	2	3

Krehalon Krehalon Industrie B.V.

認証取得マネジメントシステム	取得年月
環境 (ISO14001)	2000年6月
品質 (ISO9001)	1998年4月

項目	単位	2008	2009	2010	2011	2012
エネルギー使用量 (原油換算)	kL			4,045	4,038	4,075
エネルギー使用量原単位 (対売上)	kL/百万円			0.10	0.10	0.10
二酸化炭素排出量 (炭素換算)	トン			1,780	1,755	2,049
労働災害発件数	件	3	2	7	1	1
死亡災害発件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	365	349	360	367	364
休業度数率	-	8.22	5.73	19.46	2.72	2.75
休業災害強度率	-	0.12	0.16	0.31	0.01	0.01
設備災害発件数	件	7	4	10	4	1
廃棄物発生量	トン	1,662	1,566	1,758	1,822	1,987
リサイクル量	トン	1,321	1,255	1,732	1,703	1,949
リサイクル率	%	79	80	99	93	98
埋立量	トン	341	311	26	88	38

上海吳羽化学有限公司

認証取得マネジメントシステム	取得年月
環境 (ISO14001)	2007年1月
品質 (ISO9001)	2006年1月

項目	単位	2008	2009	2010	2011	2012
エネルギー使用量 (原油換算)	kL			1,786	2,474	1,686
エネルギー使用量原単位 (対売上)	kL/百万円			15	13	27
二酸化炭素排出量 (炭素換算)	トン			1,119	1,564	1,047
労働災害発件数	件			0	0	2
死亡災害発件数	件			0	0	0
延べ労働時間	千時間			185	189	158
休業度数率	-			0.00	0.00	12.6
休業災害強度率	-			0.00	0.00	3.45
設備災害発件数	件			0	0	0
廃棄物発生量	トン			49	84	82
リサイクル量	トン			9	20	2
リサイクル率	%			18	24	2
埋立量	トン			8	11	20

Kureha Advanced Materials LLC

項目	単位	2008	2009	2010	2011	2012
エネルギー使用量 (原油換算)	kL			960	1,151	1,234
エネルギー使用量原単位 (対売上)	kL/百万円			256	405	331
二酸化炭素排出量 (炭素換算)	トン			430	522	624
労働災害発件数	件	2	0	4	1	0
死亡災害発件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	35	21	30	29	24
休業度数率	-	57.2	0.00	135	34.8	0.00
休業災害強度率	-	0.63	0.00	0.13	0.10	0.00
設備災害発件数	件	0	0	0	0	0
廃棄物発生量	トン			0	0	